

# ***RTE for WIN32***

インストール・マニュアル (Rev.7.0)

***Midas lab***

## — 改訂履歴 —

実施日	Revision	章	内容
2000年03月11日	4.0		RTE4W32 Ver.5.0 対応(初版)
2002年01月10日	4.1		Windows XP 対応 (RTE4W32 Ver5.05 対応)
2002年10月29日	4.2		オプション・ボタン対応 (RTE4W32 Ver5.07 対応)
2003年12月01日	4.3		RTE-2000-TP 用 RTE-LAN/USB I/F に対応 (RTE4W32 Ver5.11 対応)
2006年01月05日	5.0		RTE-2000H-TP に対応 (RTE4W32 Ver6.00.00 以降対応)
2007年07月30日	6.0		Windows Vista 対応 (RTE4W32 Ver7.00.00 以降対応)
2011年06月01日	7.0		Windows 7 対応 (RTE4W32 Ver8.00.00 以降対応)

## —— 目次 ——

1. はじめに.....	5
1.1. インストール.....	5
1.2. アンインストール.....	6
1.3. Windows 7, Windows Vistaと他のOSとの違い .....	6
1.4. Windows 7 64 ビット版のサポート .....	7
2. インストール手順 .....	8
3. アンインストール手順 .....	11
4. 設定と接続確認 .....	13
4.1. インストール後の状態.....	13
4.2. ライセンス・キーとは.....	13
4.3. Check RTE2.....	14
4.4. RTE-xxxx-IE/ RTE-xxxx-TP/ RTE-xxxx-NBD / RTE-xxxx-IDB/NBDの設定 .....	16
4.5. RTE-xxxx-PC / RTE-xxxx-CBの設定.....	17
4.6. ライセンスの設定.....	18
5. デバイスドライバについて .....	19
5.1. Windows 7 32 ビット環境におけるPC-CARDドライバの組み込み .....	19
5.1.1. Windows 7 32 ビット環境におけるPC-CARDドライバの組み込み手順 .....	19
5.1.2. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合 .....	21
5.2. Windows 7 32 ビット環境におけるPCIドライバの組み込み .....	22
5.2.1. Windows 7 32 ビット環境におけるPCIドライバの組み込み手順.....	22
5.2.2. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合 .....	24
5.3. Windows 7 環境におけるUSBドライバの組み込み .....	25
5.3.1. Windows 7 環境におけるUSBドライバの組み込み手順.....	25
5.3.2. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合 .....	27
5.4. Windows Vista環境におけるPC-CARDドライバの組み込み.....	28
5.4.1. PC-CARDインターフェースを初めてスロットに挿した場合 .....	28
5.4.2. ドライバが組み込まれていない状態での後からのドライバの組み込み .....	31
5.4.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合 .....	32
5.5. Windows Vista環境におけるPCIドライバの組み込み.....	34
5.5.1. PCIボードを初めてPCIバスに挿してWindowsを起動した場合 .....	34
5.5.2. ドライバが組み込まれていない状態での後からのドライバの組み込み .....	37
5.5.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合 .....	38
5.6. Windows Vista環境におけるUSBドライバの組み込み.....	39
5.6.1. USB経由で初めてホストに接続した場合 .....	39
5.6.2. ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバの組み込み .....	39
5.6.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合 .....	40
5.7. Windows XP環境におけるPC-CARDドライバの組み込み.....	41
5.7.1. PC-CARDインターフェースを初めてスロットに挿した場合 .....	41

5.7.2.	ドライバが組み込まれていない状態での後からのドライバの組み込み	43
5.7.3.	ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合	44
5.7.4.	KMC社製PC-CARDドライバ	45
5.8.	Windows XP環境におけるPCIドライバの組み込み	49
5.8.1.	PCIボードを初めてPCIバスに挿してWindowsを起動した場合	49
5.8.2.	ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み	51
5.8.3.	ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合	52
5.9.	Windows XP環境におけるUSBドライバの組み込み	53
5.9.1.	USB経由で初めてホストに接続した場合	53
5.9.2.	ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバの組み込み	53
5.9.3.	ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合	54
5.10.	Windows98 環境におけるPC-CARDドライバの組み込み	55
5.10.1.	PC-CARDインターフェースを初めてスロットに挿した場合	55
5.10.2.	ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み	58
5.10.3.	ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合	59
5.11.	Windows98 環境におけるPCIドライバの組み込み	60
5.11.1.	PCIボードを初めてPCIバスに挿してWindowsを起動した場合	60
5.11.2.	ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み	63
5.11.3.	ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合	64
5.12.	Windows98-Second Edition(-SE)環境におけるUSBドライバの組み込み	65
5.12.1.	USB経由で初めてホストに接続した場合	65
5.12.2.	ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み	67
5.12.3.	ドライバが組み込みに異常がある場合	67
5.13.	Windows 2000 環境におけるPC-CARDドライバの組み込み	69
5.13.1.	PC-CARDインターフェースを初めてスロットに挿した場合	69
5.13.2.	ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み	72
5.13.3.	ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合	73
5.13.4.	KMC社製PC-CARDドライバ	74
5.14.	Windows 2000 環境におけるPCIドライバの組み込み	78
5.14.1.	PCIボードを初めてPCIバスに挿してWindowsを起動した場合	78
5.14.2.	ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み	81
5.14.3.	ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合	82
5.15.	Windows 2000 環境におけるUSBドライバの組み込み	83
5.15.1.	USB経由で初めてホストに接続した場合	83
5.15.2.	ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバの組み込み	83
5.15.3.	ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合	84
5.16.	Windows 95 の見分け方	85
5.17.	Windows 95 (否OSR2) 環境におけるPC-CARDドライバの組み込み	85
5.18.	Windows 95 (否OSR2) 環境におけるPCIドライバの組み込み	87
5.19.	Windows 95 (OSR2) 環境におけるPC-CARDドライバの組み込み	88
5.20.	Windows 95 (OSR2) 環境におけるPCIドライバの組み込み	92
5.21.	Windows XP, Windows 2000 およびWindows NT 4.0 環境におけるRTE I/Oドライバの組み込み	96
5.22.	Windows NT 4.0 環境におけるRTE PC-CARDドライバの組み込み	96
5.23.	Windows NT 4.0 環境におけるPC-CARDインターフェースの制限事項	96

5.24. PC-CARDが認識されない時のヒント(Windows 95/98) .....	98
5.24.1. 『新しいハードウェア』ダイアログが表示されない .....	98
5.24.2. PC-CARDを挿すと『ブーツ』という音がする .....	98
6. エラーメッセージと対策 .....	99

## 1. はじめに

本書は、RTE for WIN32 のインストール方法について記述しています。インストールは、Microsoft 社の Windows 7 (32 ビット)、Windows 7 (64 ビット)、Windows Vista、Windows XP Professional、Windows XP Home Edition、Windows98、Windows 2000、Windows 95 および Windows NT 4.0 (x86) が搭載されている PC を対象とし、ディスク容量は 70M バイト程度の空き容量が必要です。

尚、当該ソフトウェアは RTE シリーズ共通のソフトウェアです。本書も RTE シリーズ共通として記述されていますので、個々の製品固有の設定等は、それぞれの製品のマニュアルを参照してください。



本書では、区別の必要のない場合は、Windows XP Professional と Windows XP Home Edition を総称して Windows XP と表記します。



本書では、区別の必要のない場合は、Windows 7 (32 ビット) と Windows 7 (64 ビット) を総称して Windows 7 と表記します。



NEC-PC98 機 (NX シリーズは除く) では、PCI バスによるインターフェースと、Windows 2000 および Windows NT 4.0 環境での PC-CARD インターフェースはご使用になれません。



### USBで接続する場合の注意・制限事項

- ・対応している OS は Windows98-Second Edition(-SE)/2000/XP/Vista/7 です。Windows98-SE より古い Windows98 および Windows95 と WindowsNT はサポートしていません。
- ・USB1.1 での使用は推奨しません。デバッグの反応が遅く効率的なデバッグに向かないためです。



### LANで接続する場合の注意・制限事項

- ・対応している OS は Windows98(Second Edition 含む)/NT/2000/XP/Vista/7 です。Windows95 はサポートしていません。

### 1.1. インストール

RTE for WIN32 のインストール CD-ROM には、専用のインストール・コマンド (setup.exe) が付属しています。RTE for WIN32 の DLL (ダイナミック・リンク・ライブラリ) をインストールするには、このプログラムを実行してください。setup.exe は以下の処理を行います。

- rte4w32.dll と rte4w32.ini を Windows ディレクトリにコピーします(\*1)。
- RTE for WIN32 用のディレクトリを作成し、その他 DLL やプログラムをコピーします。
- スタートメニューの「プログラム」に「RTE for Windows」メニューが追加され、「Check RTE2」のショートカットが生成されます。
- Windows 7 (32 ビット)、Windows Vista、Windows XP、Windows 2000 および Windows NT 4.0 環境では、RTE I/O ドライバがインストールされます。また、Windows NT 4.0 環境では、RTE PC-CARD ドライバもインストールされます (RTE PC-CARD ドライバのインストールを選択した場合のみ)。
- Windows 7 (32 ビット)、Windows Vista、Windows XP および Windows 2000 環境では、RTE for WIN32 のフォルダに PC-CARD 用と PCI ボード用のドライバと INF ファイルがコピーされます。
- Windows 7、Windows Vista、Windows XP、Windows 2000 および Windows 98 環境では、RTE for WIN32 のフォルダに USB 用のドライバと INF ファイルがコピーされます。



インストールは、なるべく RTE for WIN32 専用のディレクトリを作成するようにしてください。これは、安全にアンインストールできるようにするためです。



\*1: Windows 7、Windows Vista では、Windows ディレクトリには rte4w32v.ini が作成され、rte4w32.ini は RTE for WIN32 のインストール先ディレクトリに作成されます。詳しくは『1.3 Windows 7、Windows Vista と他の OS との違い』を参照してください。

## 1.2. アンインストール

RTE for WIN32 のインストール・コマンド (setup.exe) により RTE for WIN32 をアンインストールできます。アンインストールは Windows ディレクトリ下の rte4w32.dll と rte4w32.ini(\*1)を削除し、RTE ディレクトリの RTE 関連ファイルを全て削除します。ただし、Windows ディレクトリ下の rte4w32.lic と rte4w32.key は登録されたライセンスが記録されているので削除しません(\*2)。

Windows 7 (32 ビット), Windows Vista, Windows XP, Windows 2000 および Windows NT 4.0 環境では、RTE I/O ドライバの登録を削除します。また、Windows NT 4.0 環境では RTE PC-CARD ドライバの登録も削除します。(RTE PC-CARD ドライバの削除後は、Windows NT の再起動をお勧めします。)



RTE ディレクトリにはインストールしたファイル以外のファイルを置かないようにしてください。setup.exe でインストールした以外のファイルがあると、アンインストールはディレクトリを削除できず正常終了しません。



アンインストールにより、rte4w32.ini ファイルが削除されるため、ISA-BUS 用、C-BUS 用ボードの割り付けアドレスや、LANBOX の IP アドレスの設定が消えてしまいます。

新しいバージョンをインストールする前に、古いバージョンをアンインストールする場合、これらの消えてしまう情報のメモを取ることをお勧めします。



\*1 : Windows 7, Windows Vista では、Windows ディレクトリの rte4w32v.ini が削除されます。

\*2 : Windows 7, Windows Vista では、ライセンス保存ファイルは RTE ディレクトリに作成されるため、アンインストール時にこれら 2 つのファイルが存在する場合は削除確認のダイアログが表示されます。

詳しくは『1.3 Windows 7, Windows Vista と他の OS との違い』を参照してください。

## 1.3. Windows 7, Windows Vista と他の OS との違い

Windows 7, Windows Vista には、ユーザ アカウント制御 (以降 UAC) 機能があり、デフォルトではこの機能が有効になっています。RTE for WIN32 を他の OS と同じようにご使用頂くために、UAC 機能の有効/無効に関係なく Windows 7/Vista 上では次の点が他の OS と異なります。

- VirtualStore の対象となるディレクトリとそのサブ・ディレクトリには、RTE for WIN32 はインストールできません。Windows 7/Vista がデフォルト状態であれば、対象となるディレクトリは、C:\Windows, C:\Program Files, C:\ProgramData の 3 つです。
- 他の OS では Windows ディレクトリに作成される rte4w32.ini が、Windows 7/Vista では RTE for WIN32 のインストール先ディレクトリに作成されます。Windows ディレクトリには、rte4w32.ini の代わりに rte4w32v.ini が作成されます。
- ライセンス保存ファイル (rte4w32.lic および rte4w32.key) は、他の OS では Windows ディレクトリに作成されますが、Windows 7/Vista では RTE for WIN32 のインストール先ディレクトリに作成されます。このため、アンインストール時にこれら 2 つのファイルが存在する場合は、削除確認のダイアログが表示されます。

Windows 7 には RTE for WIN32 の Ver8.00.00 以降が対応しています。Windows 7 に Ver8.00.00 より前の RTE for WIN32 をインストールしてしまった場合は、RTE for WIN32 を一旦アンインストールしてから新しい RTE for WIN32 をインストールしてください。また、Windows 7 に Ver7.00.00 より前の RTE for WIN32 をインストールしてしまった場合は、後述の Windows Vista の場合と同様に、RTE for WIN32 を一旦アンインストールしてから新しい RTE for WIN32 をインストールしてください。

Windows Vista には RTE for WIN32 の Ver7.00.00 以降が対応しています。もし、Windows Vista

に、Ver7.00.00 より前の RTE for WIN32 をインストールしてしまった場合は、RTE for WIN32 を一旦アンインストールしてから新しい RTE for WIN32 をインストールしてください。なお、Windows Vista の UAC 機能が有効になっていた場合は、Windows ディレクトリの VirtualStore 内に rte4w32.ini/rte4w32.lic/rte4w32.key が作成されており (rte4w32.lic と rte4w32.key はライセンスを登録した場合のみ作成される)、これら VirtualStore 内のファイルは RTE for WIN32 をアンインストールしても削除されないので、手動で削除してください。

#### 1.4. Windows 7 64 ビット版のサポート

Windows 7 の 64 ビット版でのサポートでは、次の制限事項があります。


- RTE for WIN32 の Ver8.00.00 以降が対応しています。
- ISA-BUS, PCI-BUS および PC-CARD で接続するプロダクトはサポートしていません。
- RTE-xxxx-PC と RTE-xxxx-CB はサポートしていません。
- 64 ビット・アプリケーションはサポートしていません。




## 2. インストール手順

RTE for WIN32 のインストール CD-ROM をドライブに挿入し、¥rte4w32 ディレクトリにある setup.exe を実行します。setup.exe の実行はスタートメニューの「ファイル名を指定して実行」やエクスプローラで setup.exe をダブルクリックすることで行います。

Windows 7, Windows Vista, Windows XP, Windows 2000 および Windows NT 4.0 環境の場合は、Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。

 Windows 7 では、setup.exe の実行時に下記のダイアログが表示される場合があります。このダイアログが表示された場合は、『はい』ボタンをクリックしてください。なお、UAC の設定を『通知しない』にしている場合は、このダイアログは表示されません。

 Windows Vista では、setup.exe の実行時に下記のダイアログが表示される場合があります。このダイアログが表示された場合は、『続行』ボタンをクリックしてください。なお、UAC 機能が無効になっている場合や、setup.exe にネットワーク経由でアクセスしている場合は、このダイアログは表示されません。

 Windows XP Home Edition では、アカウントの種類がコンピュータの管理者に設定されているユーザが、Administrator 権限を持つユーザになります。

- ・ Windows 7 で setup.exe 起動時に表示されるダイアログ



- ・ Windows Vista で setup.exe 起動時に表示されるダイアログ



- ① setup.exe を実行すると以下のダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスで「インストール」を選択してください。

Windows NT 4.0 環境でホストに PC-CARD のソケットが装備されている場合は、「PC カードドライバもインストールする」チェックボックスが有効になります。PC-CARD インターフェースを Windows NT 4.0 環境で使用する場合は、このチェックボックスをチェックしてください。



Windows 2000 および Windows NT 4.0 環境で PC-CARD インターフェースがご使用になれるのは、PC/AT 互換機 (DOS/V 機) です。NEC-PC98 機 (NX シリーズは除く) ではご使用になれません。



Windows NT 4.0 環境で PC-CARD インターフェースをご使用になる場合は、割り付けアドレスに関して制限事項があります。詳しくは『5.23.Windows NT 4.0 環境における PC-CARD インターフェースの制限事項』を参照してください。

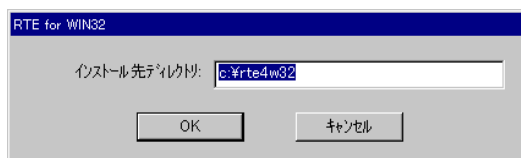
- ・ Windows 7, Windows Vista, Windows XP, Windows 2000, Windows 95/98 もしくは Windows NT 4.0 (PC-CARD ソケットなし)



- ・ Windows NT 4.0 (PC-CARD ソケットあり)



- ② 次に RTE for WIN32 のインストール先のディレクトリを入力するダイアログ・ボックスを表示します。ここでインストール先のディレクトリを指定してください。「OK」を選択するとインストールを開始し、ファイルをコピーします。



インストールは、なるべく RTE for WIN32 専用のディレクトリを作成するようにしてください。これは、安全にアンインストールできるようにするためです。



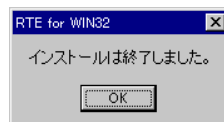
Windows 7, Windows Vista では VirtualStore の対象となるディレクトリとそのサブ・ディレクトリにはインストールできません。詳しくは『1.3 Windows 7, Windows Vista と他の OS との違い』を参照してください。

「インストール」ボタンをクリックした時に下記のダイアログが表示された場合は、Administrator 権限を持つユーザ (管理者) でログインし直してから、再度 setup.exe を実行

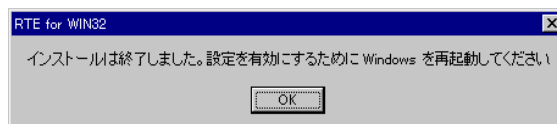
してください。



- ③ 最後にデスクトップに RTE for WIN32 のフォルダが作成され「Check RTE2」アイコンが登録されます。同時にスタートメニューの「プログラム」に「RTE for Windows」メニューが追加されます。これでインストールは終了です。



Windows NT 4.0 環境で、RTE PC-CARD ドライバがインストールされると、下記のダイアログが表示されます。この場合は、Windows NT の再起動を行ってください。



### 3. アンインストール手順

RTE for WIN32 のインストール CD-ROM をドライブに挿入し、¥rte4w32 ディレクトリにある setup.exe を実行します。setup.exe の実行はスタートメニューの「ファイル名を指定して実行」やエクスプローラで setup.exe をダブルクリックすることで行います。

Windows 7, Windows Vista, Windows XP, Windows 2000 および Windows NT 4.0 環境の場合は、Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。



**Windows XP Home Edition では、アカウントの種類がコンピュータの管理者に設定されているユーザが、Administrator 権限を持つユーザになります。**

- ① setup.exe を実行すると以下のダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスで「アンインストール」を選択してください（「PC カードドライバもインストールする」チェックボックスは、チェックされていてもされていなくても構いません）。



- ② 現在インストールされているディレクトリを表示します。「OK」を選択するとそのディレクトリ下の setup.exe がインストールした全てのファイルと Windows ディレクトリ下の rte4w32.dll と rte4w32.ini を削除します。

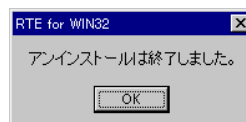
「アンインストール」ボタンをクリックした時に下記のダイアログが表示された場合は、Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインして setup.exe を実行してください。



**Windows 7, Windows Vista 以外の OS では、ライセンス情報が保存されている rte4w32.lic と rte4w32.key (Windows ディレクトリ下) は、アンインストールを行っても削除されません。したがって、rte4w32 を再度インストールした時に、登録済みライセンスを再び登録する必要はありません。**

**Windows 7, Windows Vista では、rte4w32.lic/rte4w32.key が存在した場合は、削除の確認ダイアログが表示されます。この時、削除しないを選択すると RTE for WIN32 のインストール・ディレクトリも削除されずに残ります。詳しくは『1.3 Windows 7, Windows Vista と他の OS との違い』を参照してください。**

- ③ アンインストール後、再度インストールする場合は、「2. インストール手順」から始めてください。





アンインストールを行う場合は、RTE を使用するすべてのアプリケーションの実行を終了してから行ってください。RTE を使用中のアプリケーションの実行中にアンインストールを行うと、アンインストールが正常に終了しないだけでなく、予期せぬエラーが発生することがあります。また、Windows NT 4.0 環境で、RTE PC-CARD ドライバを使用していた場合は、アンインストール後に Windows NT の再起動をお勧めします。

---

## 4. 設定と接続確認

### 4.1. インストール後の状態

RTE for WIN32 をインストールするとスタートメニューの RTE for WIN32 のグループ・ファイルに「Check RTE2」のアイコンが登録されます。「Check RTE2」により RTE for WIN32 のポートの設定や接続確認等を行うことができます。

接続テストを実施する前に、「ハードウェア・ユーザズマニュアル」を参照して、使用する RTE システムの設定と PC との接続を確認してください。



「Check RTE2」はインストール後に必ず実行し、RTE 製品の種類やインターフェースの種類、ライセンス等を設定してください。また、インストール後にこれらの項目の内容を変更した場合も「Check RTE2」を実行して設定し直してください。



Ver.4.37 以前の RTE for WIN32 がインストールされている環境で、新しいバージョンの RTE for WIN32 を上書きインストールしますと、上記のグループ・ファイルに「Check RTE32」のアイコン(緑色)が表示されます。「Check RTE32」はライセンスの登録機能等を持っていないのでご使用にはならず、「Check RTE2」を使用してください。

### 4.2. ライセンス・キーとは

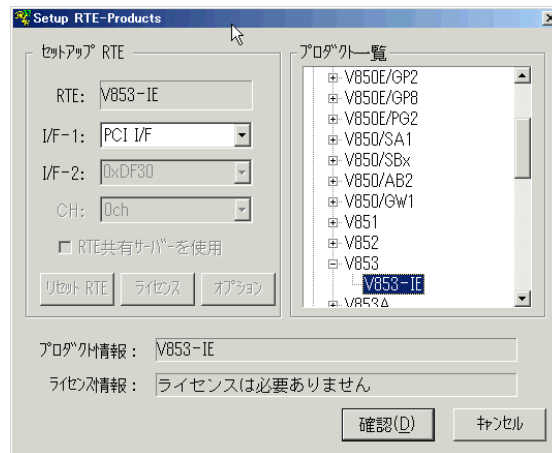
一部の製品（例えば、V850E2/ME3-TP 等）では、RTE for WIN32 を使用するためにライセンス・キーの設定を必要とします。ライセンス・キーは、ライセンスが必要な製品に添付されているライセンス・シートに、ID またはシリアル番号と共に記載されています。

ライセンス・キーと ID またはシリアル番号は、「Check RTE2」のライセンス・ダイアログで設定してください（『4.6.ライセンスの設定』参照）。

ライセンス・キーの設定は製品ごとに必要です。

### 4.3. Check RTE2

「Check RTE2」を起動すると、次のようなダイアログ・ボックスを表示します。各項目の概要を以下に説明します。詳しくは次節以降の製品種類ごとの説明を参照してください。



- プロダクト一覧** : ご使用になる製品を選択します。
- RTE** : ダイアログ右の「プロダクト一覧」のツリーで選択された製品が表示されます。
- I/F-1** : インターフェース・ボードの種類や、通信ポートを設定します。選択した製品により、この項目で選択できる内容が変わります。
- I/F-2** : インターフェース・ボードの I/O アドレスや、通信のボーレートを設定します。「I/F-1」で選択した内容により、この項目で選択できる内容が変わります。
- CH** : 将来の機能拡張のために用意されています。
- RTE 共有サーバ-を使用** : 将来の機能拡張のために用意されています。
- リセット RTE** : このボタンをクリックするとハード的なリセットが行われます。ハード的なリセットがサポートされていない製品では、このボタンはグレーになっています。
- ライセンス** : このボタンをクリックするとライセンス・キーの設定を行うことができます。ライセンス・キーの設定が必要ない製品では、このボタンはグレーになっています。
- オプション** : このボタンをクリックすると各製品に依存する設定を行うことができます。オプションの設定が必要ない製品では、このボタンはグレーになっています。
- プロダクト情報** : 「プロダクト一覧」で選択した製品についての情報が表示されます。
- ライセンス状態** : 「プロダクト一覧」で選択した製品について、ライセンスの設定の要否が表示されます。



Rte4win32 Ver6.00.00 以降ではライセンスの有効/無効の表示はなされません。

- 確認(D)** : このボタンをクリックすると、設定された内容で製品の接続の確認を開始します。したがって、このボタンをクリックする時には、各製品が正しく接続されている必要があります。また、接続確認後に簡単な機能テストを行うことができます。

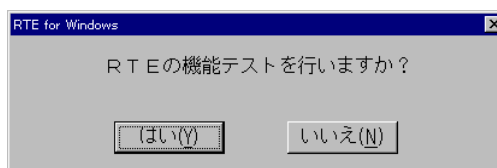


「プロダクトの一覧」のツリー表示から製品を選択する時、ツリーのもっとも深い部分に表示される項目を選択してください。ツリーの途中の項目を選択した状態では製品の選択は切り替わりません。製品の選択が切り替わったかどうかは、「RTE」の表示が切り替わったことで確認することができます。

「Check RTE2」で各項目を設定したら、「確認」ボタンをクリックしてください。RTE システムとの接続が確認され、確認が成功すると以下のようなダイアログ・ボックスが表示されます。

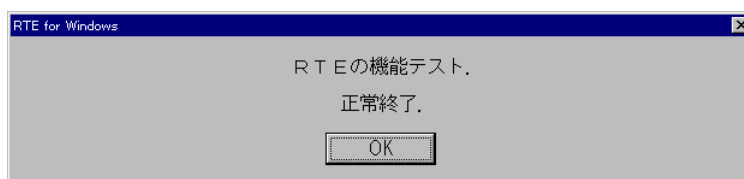


「RTEの接続を確認しました」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックすると、次の機能テストの確認ダイアログ・ボックスを表示します。「いいえ」を選択するとプログラムを終了します。「はい」を選択すると、RTE システムの簡単な機能テストを行います。



機能テスト中にエラーが発生すると、エラーメッセージの確認ダイアログ・ボックスが表示されます。エラーの詳細については、『6.エラーメッセージと対策』を参照してください。

テストが正常に終了すると、以下のダイアログ・ボックスを表示します。



これで、通信と基本的な機能テストが完了しました。

**【お願い】** インストール時や機能テスト時にエラーが発生し、原因が不明の場合には

- ご使用の PC の機種と Windows のバージョン
- RTE システムの種類と接続状態(機器の構成)
- エラーの発生箇所と内容

を、サポート担当までご連絡ください。また機能テストが正常で、デバッグ使用中に通信で接続エラー等が発生する場合には、デバッグの種類とバージョンも合わせて、ご連絡ください。



「Check RTE2」は、Windows ディレクトリ下 (Windows 7, Windows Vista の場合は RTE for WIN32 のインストール・ディレクトリ下) の rte4w32.ini (設定保存ファイル) および rte4w32.lic と rte4w32.key (ライセンス保存ファイル) を書き換えます。

Windows 7, Windows Vista, Windows XP, Windows2000 および Windows NT 4.0 環境では、一般ユーザが「Check RTE2」をえるようにするために、必要であればこれらのファイルのアクセス権を変更してください。

なお rte4w32.lic と rte4w32.key は、ライセンス情報を登録しない限り作成されません。



#### 4.4. RTE-xxxx-IE/ RTE-xxxx-TP / RTE-xxxx-NBD / RTE-xxxx-IDB/NBD の設定

「Check RTE2」の「プロダクトの一覧」で、xxxx-IE,xxxx-TP,xxxx-NBD または xxxx-IDB/NBD を選択した場合、I/F-1: に選択できる接続手段がプルダウン・リストボックスに一覧表示されます。リストボックスに表示される接続手段は以下の通りです。

- ISA I/F** : PC/AT 互換機 (DOS/V 機) で ISA-BUS 用のホスト・インターフェース・カードを使用する場合に選択します。I/F-2 で、インターフェース・カードへ設定した I/O アドレスを指定する必要があります。この項目は、PC/AT 互換機(DOS/V 機)の時だけ表示されます(\*1)。
- C-BUS I/F** : NEC-PC98 機 (NX シリーズを除く) で C-BUS 用のホスト・インターフェース・カードを使用する場合に選択します。I/F-2 で、インターフェース・カードへ設定した I/O アドレスを指定する必要があります。この項目は、NEC-PC98 機 (NX シリーズを除く) の時だけ表示されます。
- PC CARD** : PC-CARD(PCMCIA)インターフェース・カードを使用する場合に選択します。I/F-2 には、現在割り付けられている I/O アドレスが表示され、I/O アドレスを指定する必要はありません。この項目は、PC-CARD インターフェース・カードがソケットに装着されていないと表示されません(\*1)。
- PCI I/F** : PCI-BUS 用のホスト・インターフェース・カードを使用する場合に選択します。I/F-2 には、現在割り付けられている I/O アドレスが表示され、I/O アドレスを指定する必要はありません。この項目は、PCI-BUS 用のホスト・インターフェース・カードが装着されていないと表示されません。また、NEC-PC98 機 (NX シリーズを除く) の場合もこの項目は表示されません(\*1)。
- LAN I/F** : LAN を使用する場合に選択します。I/F-2 で、接続先の RTE-2000(H)-TP 等の IP アドレスを指定する必要があります。
- USB I/F** : USB を使用する場合に選択します。この項目は、ホストに USB 経由で RTE-2000(H)-TP が接続されていないと表示されません。複数の RTE-2000(H)-TP が USB 経由でホストに接続している場合、I/F-2 で接続先の RTE-2000(H)-TP の MAC アドレスを指定する必要があります。RTE-2000(H)-TP の MAC アドレスは、RTE-2000(H)-TP の背面のシールに記載されています。

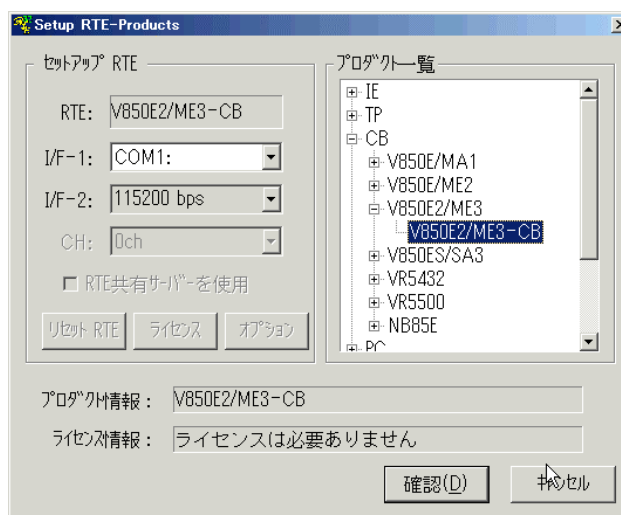


\*1 : Windows 7 の 64 ビット版では、ISA I/F, PC-CARD, PCI I/F は表示されません (『1.4 Windows 7 64 ビット版のサポート』参照)。

#### 4.5. RTE-xxxx-PC / RTE-xxxx-CB の設定

「Check RTE2」の「プロダクトの一覧」で、xxxx-PC または xxxx-CB を選択した場合、I/F-1: に選択できる接続手段がプルダウン・リストボックスに一覧表示されます。リストボックスに表示される接続手段は以下の通りです。

- IO ポート** : ISA-BUS でバス接続する場合に選択します。I/F-1 で設定したボードが ISA-BUS 用のボードでないとこの項目は表示されません。  
I/F-2 で、ボードへ設定した I/O アドレスを指定する必要があります。
- PCI** : PCI-BUS でバス接続する場合に選択します。I/F-1 で設定したボードが PCI-BUS 用のボードでないとこの項目は表示されません。また、NEC-PC98 機（NX シリーズは除く）の場合もこの項目は表示されません。  
I/F-2 には、AUTO と表示され I/O アドレスを指定する必要はありません。
- COM1,2,3,4** : シリアルで接続する場合に使用する COM 番号を選択します。  
I/F-2 で、ボーレートを指定する必要があります。



I/F-2: は、接続手段に応じたパラメータ(I/O アドレス、またはボーレート)が、プルダウン・リストボックスに一覧表示されますので、それぞれボードに設定した値と同じ値を選択してください。



**Windows 7 の 64 ビット版では、RTE-xxxx-PC と RTE-xxxx-CB はサポートされません（『1.4 Windows 7 64 ビット版のサポート』参照）。**

#### 4.6. ライセンスの設定

「Check RTE2」の「ライセンス状態」に「ライセンスが必要です」と表示されている場合、その製品を使用するためにはライセンスの設定が必要です。

ライセンスを設定するには、「Check RTE2」の「ライセンス」ボタンをクリックして、ライセンス・ダイアログを起動し、製品に添付されているライセンス・シートに記載されている ID またはシリアル番号と、ライセンス・キーを入力します。

##### ライセンス名の選択

ライセンス・ダイアログのライセンス名入力欄の右端の矢印をクリックしてライセンスを設定する対象製品を選択してください。

##### KIT-xxxx-xxの場合の入力

シリアル番号とライセンス・キーを入力してください。

##### KIT-xxxx-xx-Hの場合の入力

ID とライセンス・キーを入力してください。

入力できたら、「OK」ボタンをクリックしてください。



RTE-xxxx-xx-H のライセンスは特定の RTE-2000H-TP での該当製品(キット)の使用を許可するものです。入力する ID は RTE-2000H-TP の MAC ADDR(本体裏面に記載)の下 6 桁を指し、これに合致した本体でのみ動作します。

## 5. デバイスドライバについて

ホスト I/F が PCI や PC-CARD(PCMCIA)、USB の場合、及び PCI バス搭載の RTE-xxxx-PC シリーズを使用する場合には、Rte for WIN32 のインストールとは別に、I/F 個別のドライバをインストールしなければなりません。

この章では、OS ごとにホスト I/F 個別のドライバのインストール方法を説明します。

### 5.1. Windows 7 32 ビット環境における PC-CARD ドライバの組み込み

この章では、Windows 7 の 32 ビット版使用時の PC-CARD 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

#### 5.1.1. Windows 7 32 ビット環境における PC-CARD ドライバの組み込み手順

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。



**Administrator 権限を持たないユーザでログインした場合、インストール手順の途中で Administrator 権限を持つユーザ（管理者）のユーザ名とパスワードの入力が必要になります。**

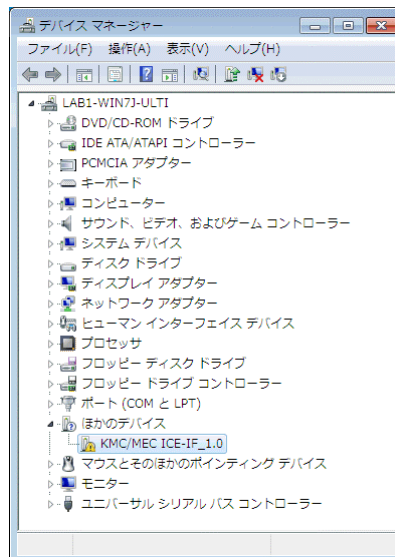
- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。
- 3) PC-CARD(PCMCIA)インターフェースが PC-CARD 用のソケットに挿されていない場合は挿し込みます。
- 4) デバイス・マネージャを起動すると、ドライバが組み込まれていない場合、下記のように『KMC/MEC-ICE-IF\_1.0』が『ほかのデバイス』の下に！マーク付きで表示されます。



**デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
[スタート メニュー] → [コントロール パネル] を選択し、表示されたダイアログで [ハードウェアとサウンド] をクリックし、更に [デバイス マネージャ] をクリックしてください。**

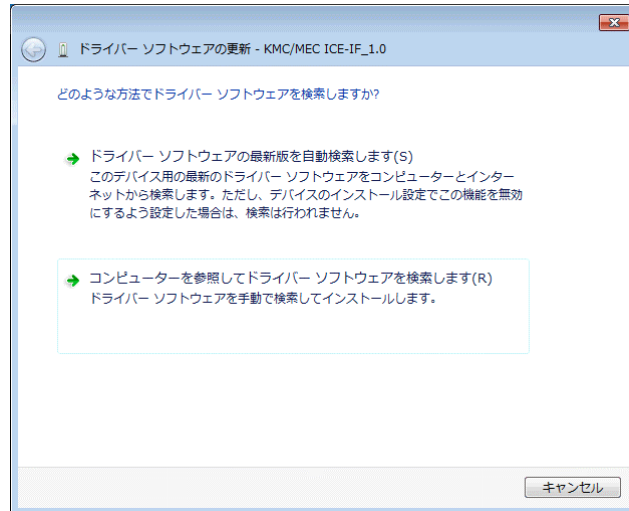


**ドライバが既に組み込まれている場合は、デバイス・マネージャの表示がこの章の最後の示した表示になります。**

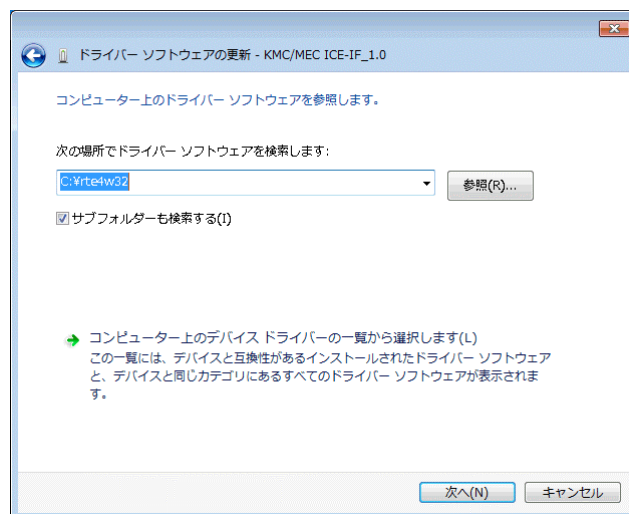


- 5) デバイス マネージャで『KMC/MEC-ICE-IF\_1.0』を選択し [操作] メニューから [ドライバー ソフトウェアの更新(P)...] を選択してください。

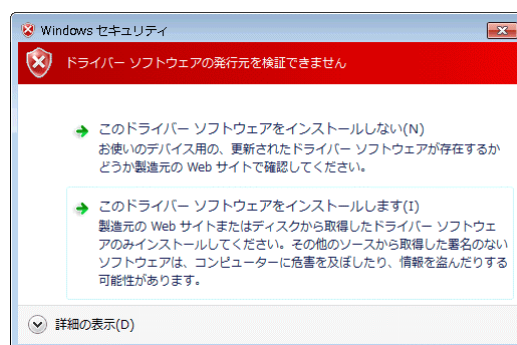
- 6) 『ドライバー ソフトウェアの更新』ダイアログが表示されますので、[コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します(R)] をクリックしてください。



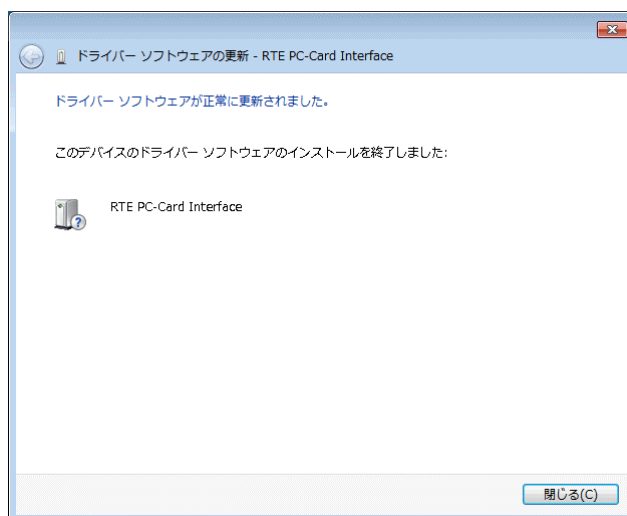
- 7) 次に下記のダイアログが開きますので、[次の場所でドライバー ソフトウェアを検索します:] のエディット・ボックスに RTE for WIN32 をインストールしたディレクトリを入力して、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。



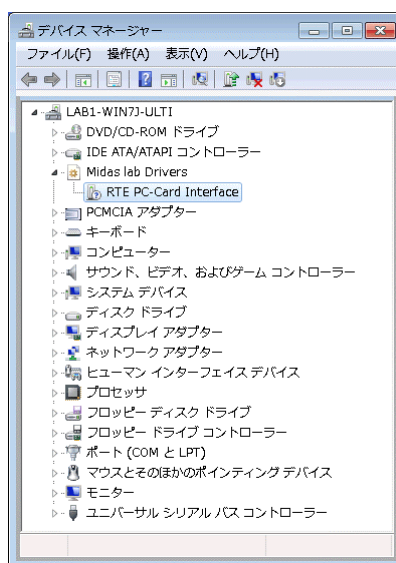
- 8) 『Windows セキュリティ』ダイアログが開きますので、[このドライバー ソフトウェアをインストールします(I)] をクリックしてください。



- 9) ドライバ ソフトウェアのインストールが開始され、暫くすると下記のダイアログが表示されますので、[閉じる(C)] ボタンをクリックしてください。



以上で、PC-CARDのドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。



#### 5.1.2. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『KMC/MEC-ICE-IF\_1.0』もしくは『RTE PC-Card Interface』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、デバイス マネージャに『KMC/MEC-ICE-IF\_1.0』もしくは『RTE PC-Card Interface』が表示されなくなります。


このような場合、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスキキャン(A)] を選択するか、PC-CARD を一旦ソケットから抜いてから再度挿し直してください。PC-CARD が検出された以降の手順は、『5.1.1 Windows 7 32 ビット環境における PC-CARD ドライバの組み込み手順』と同様です。

## 5.2. Windows 7 32 ビット環境における PCI ドライバの組み込み


この章では、Windows 7 の 32 ビット版使用時の PCI 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。


### 5.2.1. Windows 7 32 ビット環境における PCI ドライバの組み込み手順

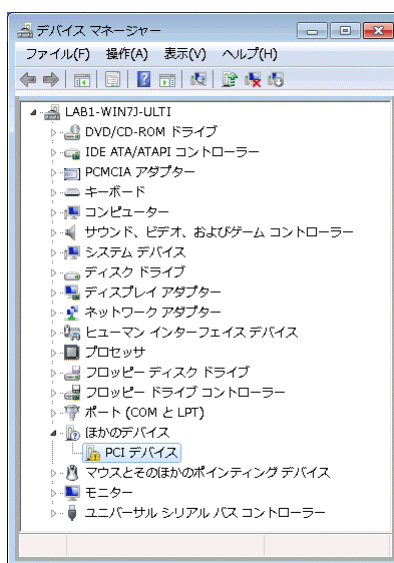
- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。

 Administrator 権限を持たないユーザでログインした場合、インストール手順の途中で Administrator 権限を持つユーザ（管理者）のユーザ名とパスワードの入力が必要になります。

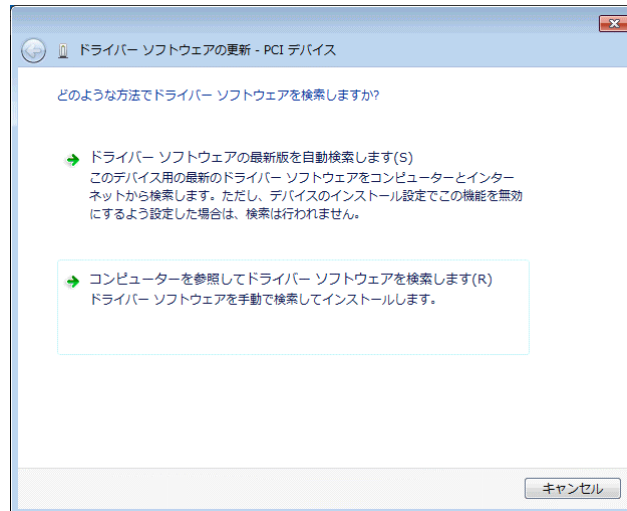
- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。
- 3) デバイス・マネージャを起動すると、ドライバが組み込まれていない場合、下記のように『PCI デバイス』が『ほかのデバイス』の下に！マーク付きで表示されます。

 デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
[スタート メニュー] → [コントロール パネル] を選択し、表示されたダイアログで [ハードウェアとサウンド] をクリックし、更に [デバイス マネージャ] をクリックしてください。

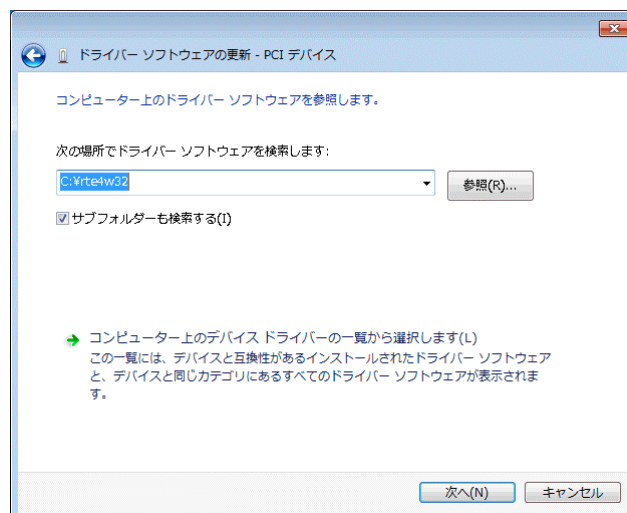
 ドライバが既に組み込まれている場合は、デバイス・マネージャの表示がこの章の最後の示した表示になります。



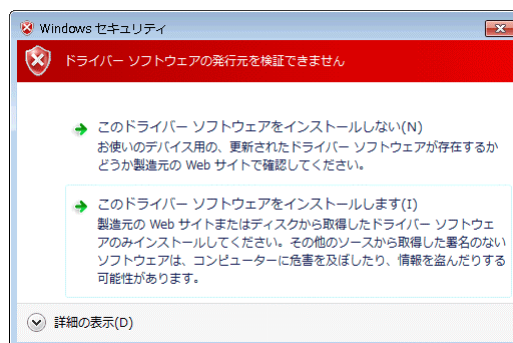
- 4) デバイス マネージャで『PCI デバイス』を選択し [操作] メニューから [ドライバー ソフトウェアの更新(P)...] を選択してください。
- 5) 『ドライバー ソフトウェアの更新』ダイアログが表示されますので、[コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します(R)] をクリックしてください。



- 6) 次に下記のダイアログが開きますので、[次の場所でドライバー ソフトウェアを検索します:] のエディット・ボックスに RTE for WIN32 をインストールしたディレクトリを入力して、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。

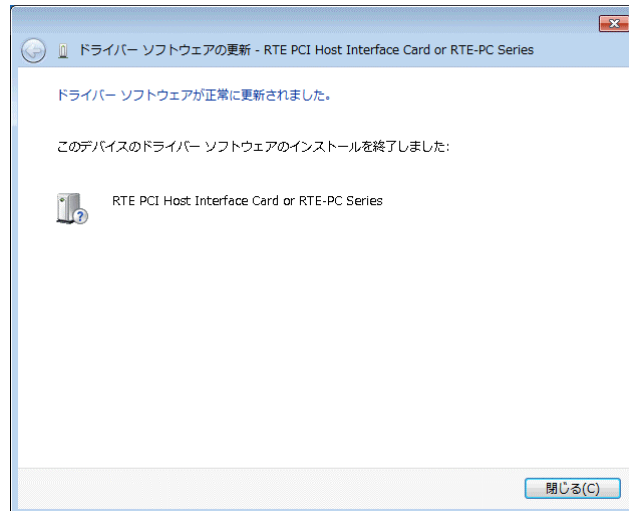


- 7) 『Windows セキュリティ』ダイアログが開きますので、[このドライバー ソフトウェアをインストールします(I)] をクリックしてください。

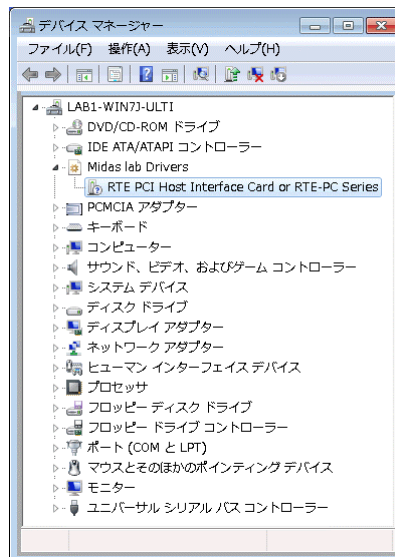


- 8) ドライバ ソフトウェアのインストールが開始され、暫くすると下記のダイアログが表示されますので、[閉じる(C)] ボタンをクリックしてください。





以上で、PCI ボードのドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。



#### 5.2.2. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『PCI デバイス』もしくは『RTE PCI Host Interface Card or RTE-PC Series』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、デバイス マネージャに『PCI デバイス』もしくは『RTE PCI Host Interface Card or RTE-PC Series』が表示されなくなります。

このような場合、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスクリーン(A)] を選択してください。PCI デバイスが検出された以降の手順は、『5.2.1 Windows 7 32 ビット環境における PCI ドライバの組み込み手順』と同様です。

### 5.3. Windows 7 環境における USB ドライバの組み込み

この章では、Windows 7 使用時の USB 用ドライバの組み込み手順について説明します。  
Windows 7 の 32 ビット版と 64 ビット版のドライバの組み込み手順は同じです。



**USB I/F でご使用になる場合、USB1.1 での使用は推奨しません。デバッグの反応が遅く効率的なデバッグに向かないためです。**

#### 5.3.1. Windows 7 環境における USB ドライバの組み込み手順

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。



**Administrator 権限を持たないユーザでログインした場合、インストール手順の途中で Administrator 権限を持つユーザ（管理者）のユーザ名とパスワードの入力が必要になります。**

- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。
- 3) RTE-2000(H)-TP がホストに接続されていない場合、USB 経由で接続してください。
- 4) デバイス・マネージャを起動すると、ドライバが組み込まれていない場合、下記のように『RTE-2000-TP USB Interface』が『ほかのデバイス』の下に！マーク付きで表示されます。

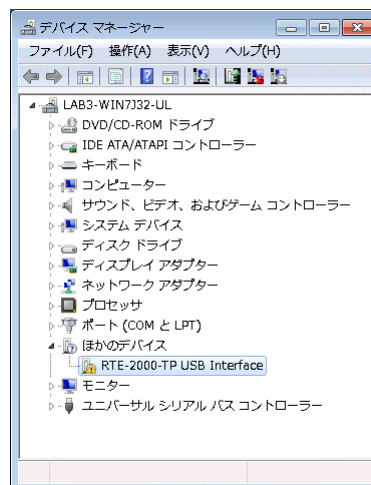


**デバイス マネージャは次の手順で起動できます。**

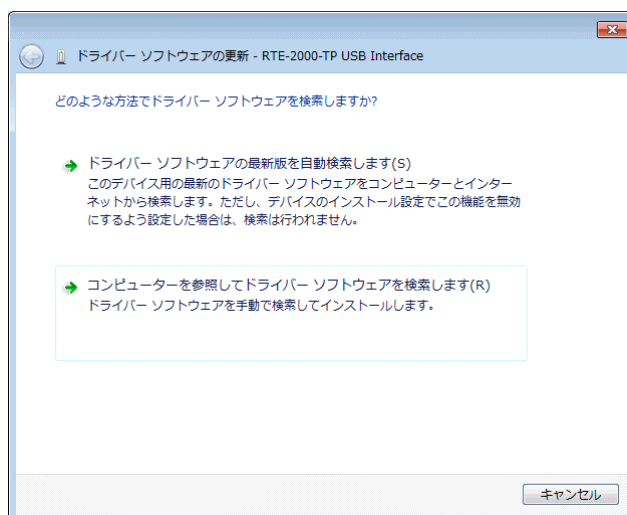
【スタート メニュー】 → 【コントロール パネル】 を選択し、表示されたダイアログで 【ハードウェアとサウンド】 をクリックし、更に 【デバイス マネージャ】 をクリックしてください。



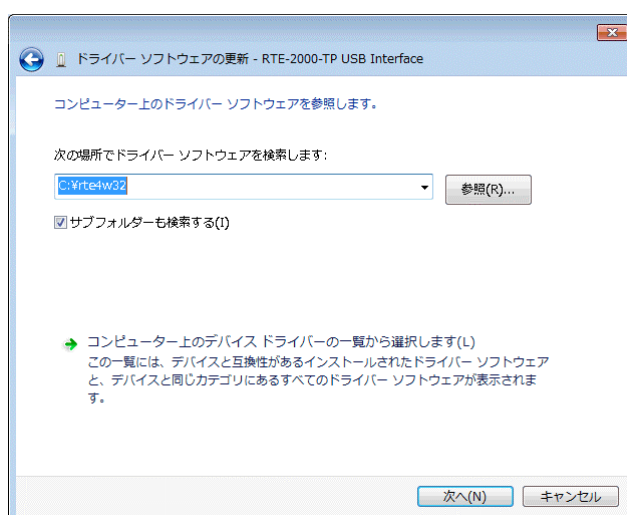
**ドライバが既に組み込まれている場合は、デバイス・マネージャの表示がこの章の最後の示した表示になります。**



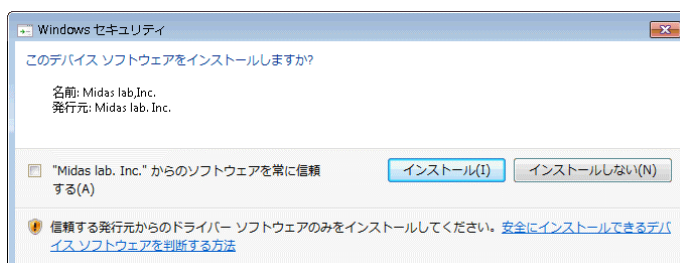
- 5) デバイス マネージャで『RTE-2000-TP USB Interface』を選択し [操作] メニューから [ドライバ ソフトウェアの更新(P)...] を選択してください。
- 6) 『ドライバー ソフトウェアの更新』ダイアログが表示されますので、[コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します(R)] をクリックしてください。



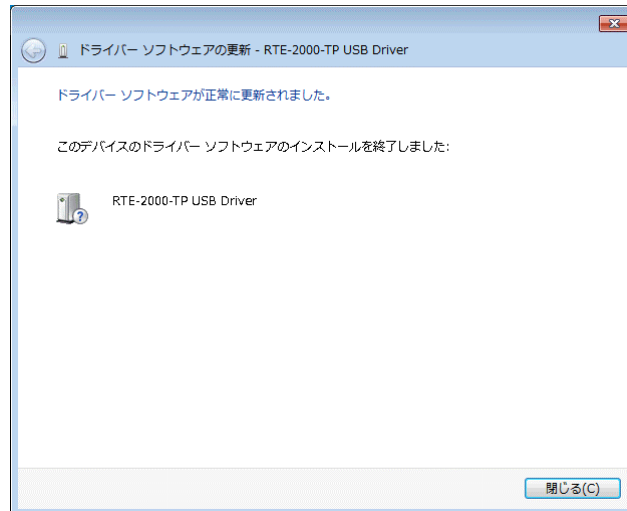
- 7) 次に下記のダイアログが開きますので、[次の場所でドライバー ソフトウェアを検索します:] のエディット・ボックスに RTE for WIN32 をインストールしたディレクトリを入力し、[サブフォルダーも検索する(I)] チェック・ボックスにチェックを入れて、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。



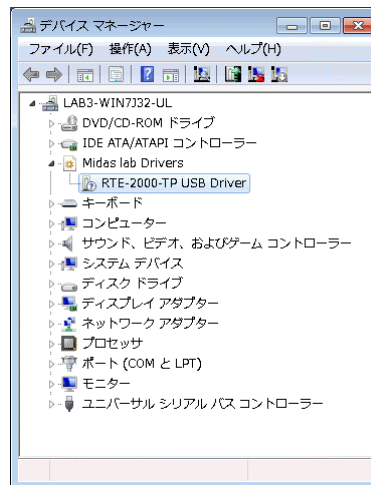
- 8) 『Windows セキュリティ』ダイアログが開きますので、[インストールする(I)] ボタンをクリックしてください。



- 9) ドライバ ソフトウェアのインストールが開始され、暫くすると下記のダイアログが表示されますので、[閉じる(C)] ボタンをクリックしてください。



以上で、USB のドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。



### 5.3.2. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で USB ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合、RTE-2000(H)-TP を示す USB デバイスがデバイス・マネージャに表示されなくなります。

このような場合は、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスキャン(A)] を選択するか、RTE-2000(H)-TP から USB ケーブルを抜き、少し待ってから再度 USB ケーブルを挿してください。すると USB デバイスがデバイス・マネージャに表示されるようになります。これ以降の手順は『5.3.1 Windows 7 環境における USB ドライバの組み込み手順』と同様です。


#### 5.4. Windows Vista 環境における PC-CARD ドライバの組み込み

この章では、Windows Vista 使用時の PC-CARD 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。


##### 5.4.1. PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合

PC-CARD インターフェースを初めて PC-CARD ドライブに挿した場合のドライバの組み込み手順を下記に示します。


- 10) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。

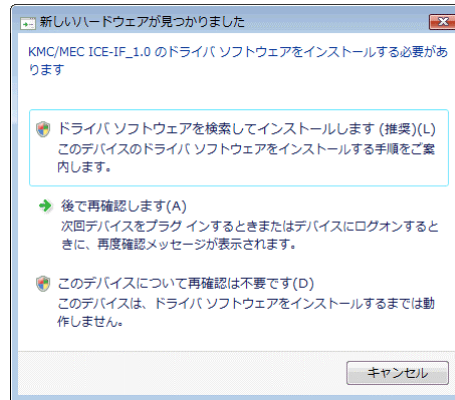
 Administrator 権限を持たないユーザでログインした場合、インストール手順の途中で Administrator 権限を持つユーザ（管理者）のユーザ名とパスワードの入力が必要になります。


- 11) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿す前に、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。

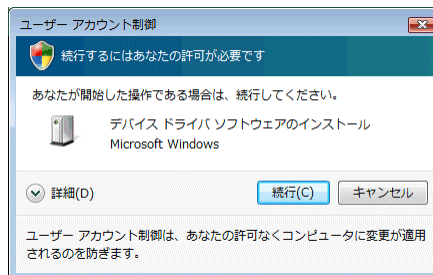
 Rte for WIN32 のインストールは、下記の『新しいハードウェアが見つかりました』ダイアログが表示されている状態で行って頂いても構いません。

- 12) PC-CARD(PCMCIA)インターフェースを PC-CARD 用のソケットに差し込みます。しばらくすると『新しいハードウェアが見つかりました』ダイアログが表示されるので、[ドライバ ソフトウェアを検索してインストールします(推奨)(L)] をクリックしてください。

 [後で再確認します(A)] や [このデバイスについて再確認は不要です(D)] を選択した場合は、『5.4.2 ドライバが組み込まれていない状態での後からのドライバの組み込み』の手順を実施してください。

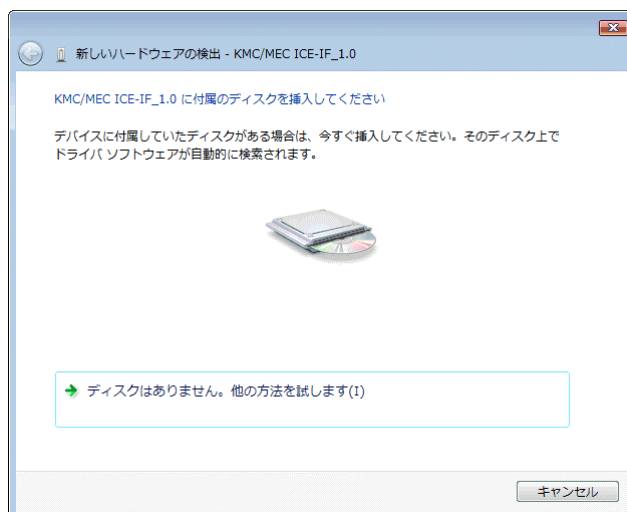


 ユーザ アカウント制御(UAC)が有効になっている場合は、上記選択をするときユーザ アカウント制御ダイアログが開きますので、[続行(C)] をクリックしてください。

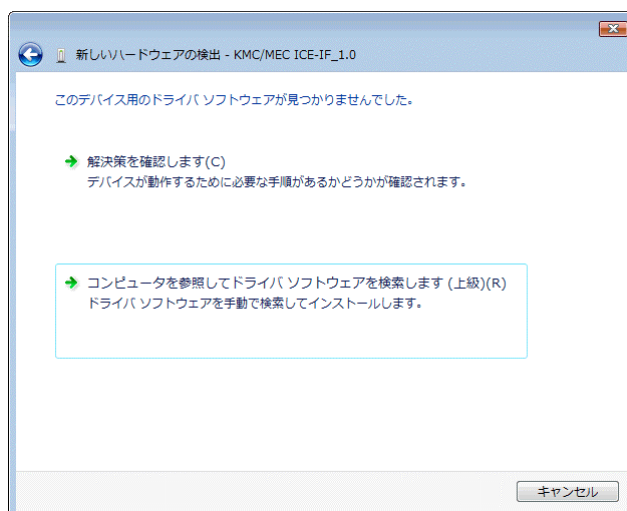


- 13) 暫くの間ドライバ ソフトウェアの検索が行なわれた後、下記のダイアログが開きますの

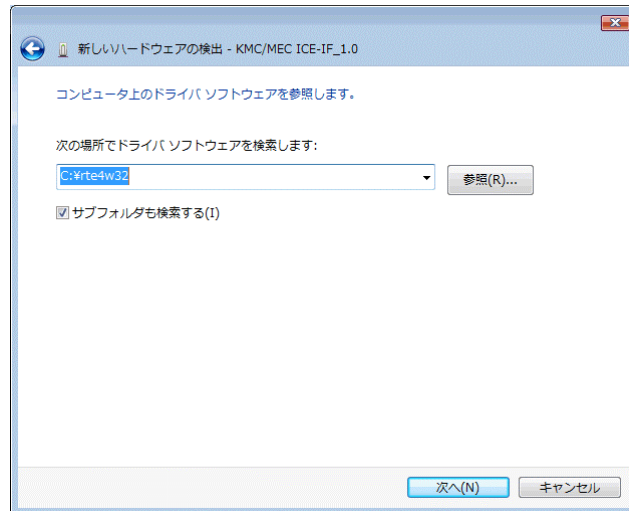
で、[ディスクはありません。他の方法を試します(I)] をクリックしてください。



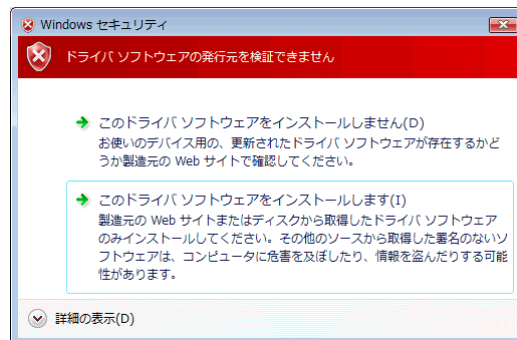
14) 次に下記のダイアログが開きますので、[コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します(上級)(R)] をクリックしてください。



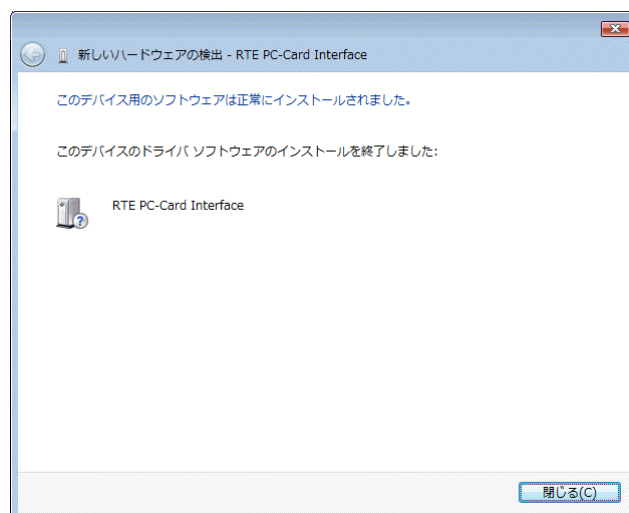
15) 次に下記のダイアログが開きますので、[次の場所でドライバソフトウェアを検索します:] のエディット・ボックスに RTE for WIN32 をインストールしたディレクトリを入力して、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。



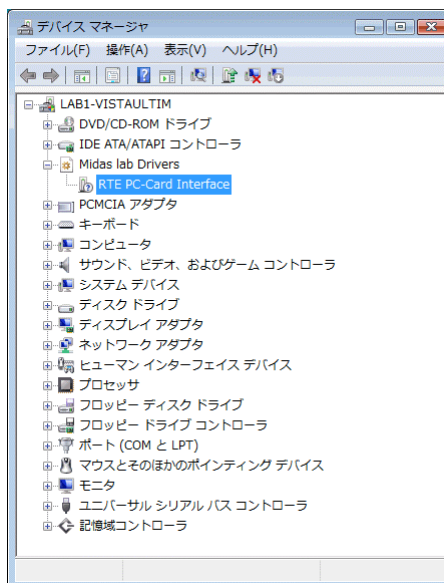
- 16) 『Windows セキュリティ』ダイアログが開きますので、[このドライバ ソフトウェアをインストールします(I)] をクリックしてください。



- 17) ドライバ ソフトウェアのインストールが開始され、暫くすると下記のダイアログが表示されますので、[閉じる(C)] ボタンをクリックしてください。



以上で、PC-CARD の検出とドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。

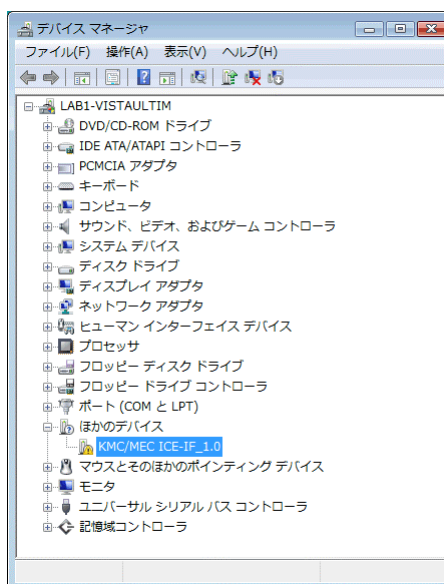


- ✓ デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [コントロール パネル] を選択し、左側のペインで [クラシック表示] を選択し、[デバイス マネージャ] をダブルクリックしてください。

#### 5.4.2. ドライバが組み込まれていない状態での後からのドライバの組み込み

ドライバの組み込みの手順を間違えた等の理由で、ドライバの組み込みを行わなかった場合に、後からドライバを組み込む手順を以下に説明します。


ドライバが組み込まれていない場合、デバイス マネージャを起動すると以下のように『KMC/MEC-ICE-IF\_1.0』が『ほかのデバイス』の下に！マーク付きで表示されます。



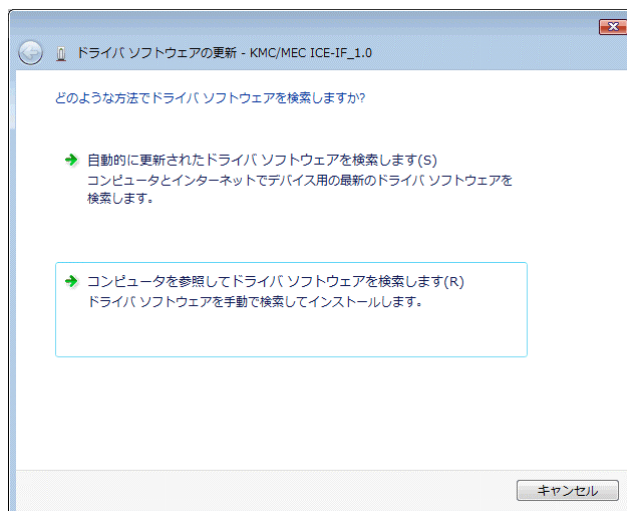
- ✓ デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [コントロール パネル] を選択し、左側のペインで [クラシック表示] を選択し、[デバイス マネージャ] をダブルクリックしてください。

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。

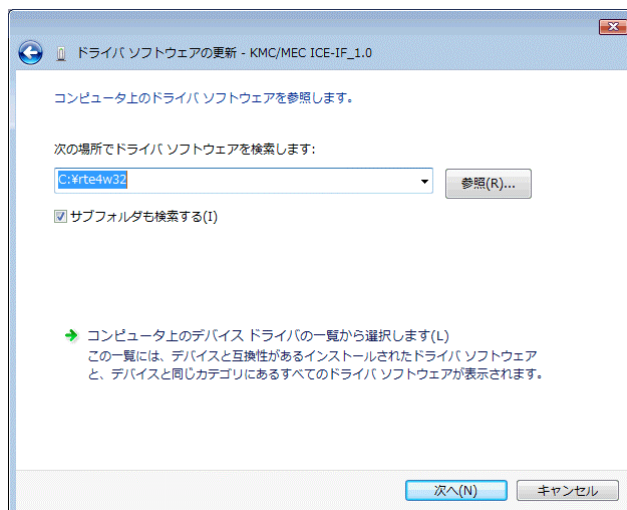


 Administrator 権限を持たないユーザでログインした場合、インストール手順の途中で Administrator 権限を持つユーザ（管理者）のユーザ名とパスワードの入が必要になります。

- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。
- 3) デバイス マネージャで『KMC/MEC-ICE-IF\_1.0』を選択し [操作] メニューから [ドライバ ソフトウェアの更新(P)...] を選択してください。
- 4) 『ドライバ ソフトウェアの更新』ダイアログが表示されますので、[コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します(R)] をクリックしてください。



- 5) 次に下記のダイアログが開きますので、[次の場所でドライバ ソフトウェアを検索します:] のエディット・ボックスに RTE for WIN32 をインストールしたディレクトリを入力して、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。



- 6) これ以降の手順は、『5.4.1 PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合』の16)からの手順と同じです。

#### 5.4.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『KMC/MEC-ICE-IF\_1.0』もしくは『RTE PC-Card Interface』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、デバイス マネージャに『KMC/MEC-ICE-IF\_1.0』もしく

は『RTE PC-Card Interface』が表示されなくなります。

このような場合、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスクリーン(A)] を選択するか、PC-CARD を一旦ソケットから抜いてから再度挿し直してください。PC-CARD が検出された以降の手順は、『5.4.1 PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合』と同様です。

## 5.5. Windows Vista 環境における PCI ドライバの組み込み

この章では、Windows Vista 使用時の PCI 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

### 5.5.1. PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合

RTE シリーズの PCI ボードを初めて PCI バスに挿した後、Windows Vista を起動した場合の手順を以下に説明します。

- 9) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。



Administrator 権限を持たないユーザでログインした場合、インストール手順の途中で Administrator 権限を持つユーザ（管理者）のユーザ名とパスワードの入力が必要になります。

- 10) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。

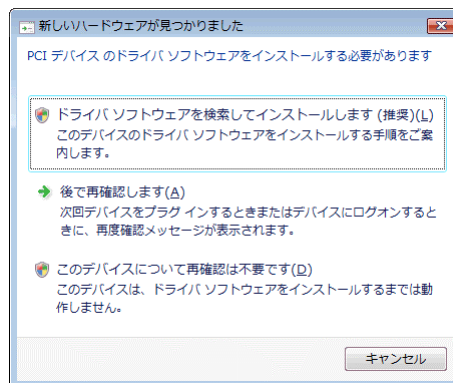


Rte for WIN32 のインストールは、下記の『新しいハードウェアが見つかりました』ダイアログが表示されている状態で行っても構いません。

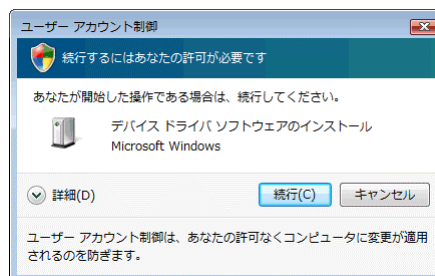
- 11) ログイン後しばらくすると『新しいハードウェアが見つかりました』ダイアログが表示されるので、[ドライバ ソフトウェアを検索してインストールします(推奨)(L)] をクリックしてください。



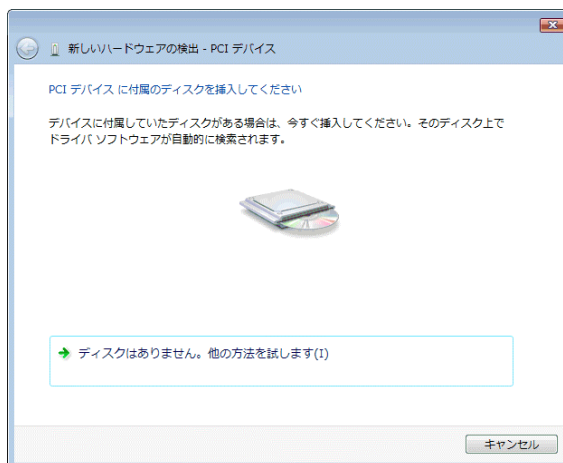
[後で再確認します(A)] や [このデバイスについて再確認は不要です(D)] を選択した場合は、『5.5.2 ドライバが組み込まれていない状態での後からのドライバの組み込み』の手順を実施してください。



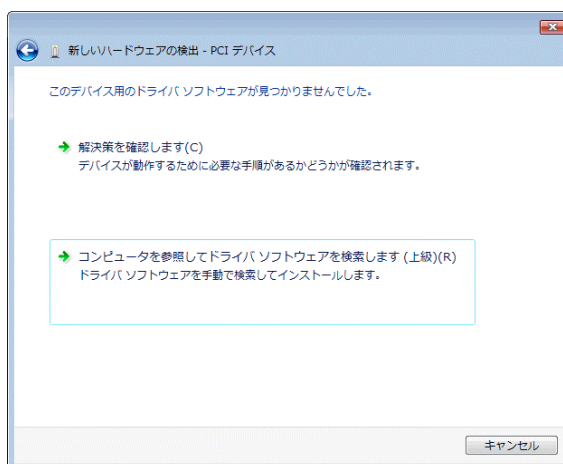
ユーザ アカウント制御(UAC)が有効になっている場合は、上記選択をするとユーザ アカウント制御ダイアログが開きますので、[続行(C)] をクリックしてください。



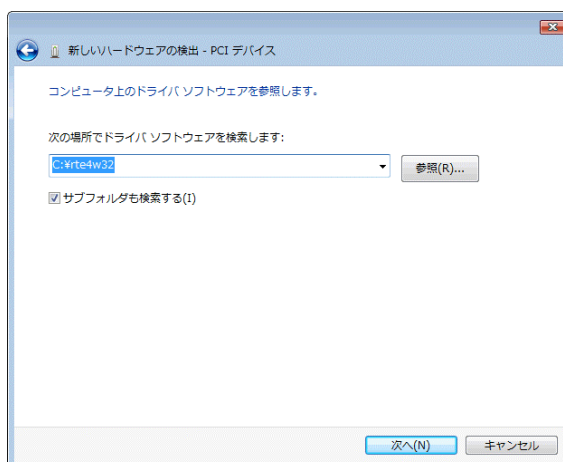
- 12) 暫くの間ドライバ ソフトウェアの検索が行なわれた後、下記のダイアログが開きますので、[ディスクはありません。他の方法を試します(I)] をクリックしてください。



- 13) 次に下記のダイアログが開きますので、[コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します(上級)(R)] をクリックしてください。

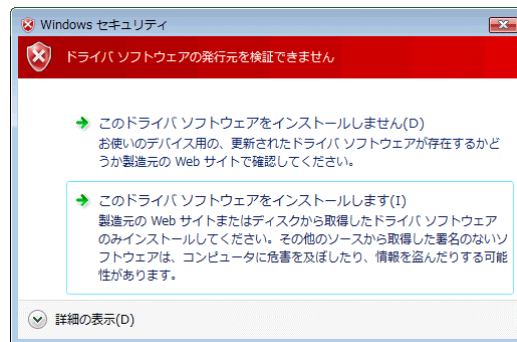


- 14) 次に下記のダイアログが開きますので、[次の場所でドライバソフトウェアを検索します:] のエディット・ボックスに RTE for WIN32 をインストールしたディレクトリを入力して、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。

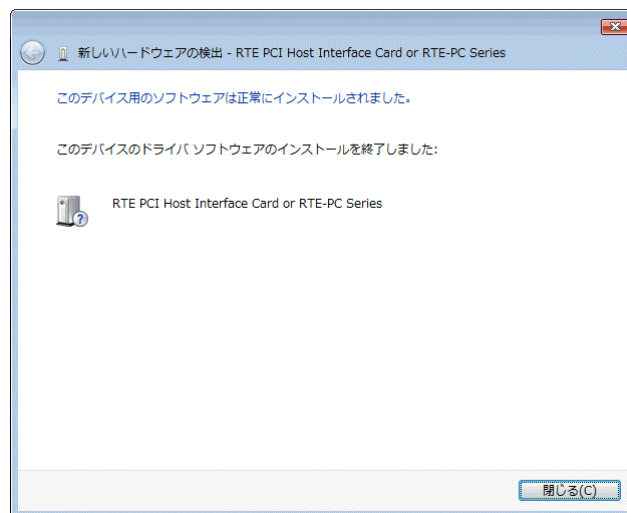


- 15) 『Windows セキュリティ』ダイアログが開きますので、[このドライバソフトウェアを

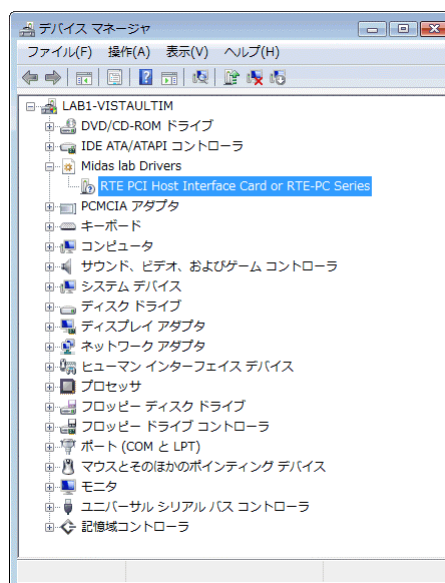
インストールします(I)] をクリックしてください。




16) ドライバソフトウェアのインストールが開始され、暫くすると下記のダイアログが表示されますので、[閉じる(C)] ボタンをクリックしてください。



以上で、PCI ボードの検出とドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。

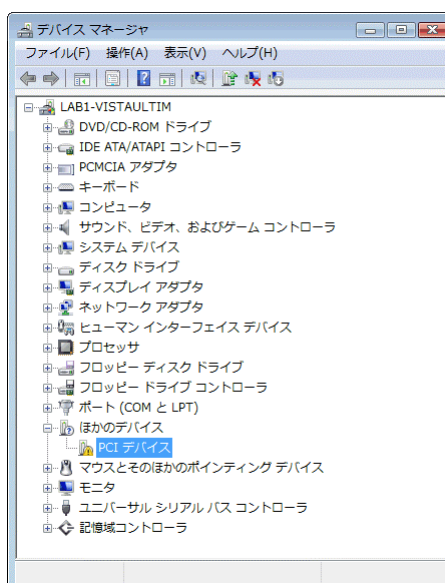



- 
-  デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [コントロール パネル] を選択し、左側のペインで [クラシック表示] を選択し、[デバイス マネージャ] をダブルクリックしてください。
- 

### 5.5.2. ドライバが組み込まれていない状態での後からのドライバの組み込み


Windows Vista をインストールする前から PCI ボードが PCI バスに挿されていた場合や、手順を誤ってドライバの組み込みを行わなかった場合に、後からドライバを組み込む手順を以下に説明します。

ドライバが組み込まれていない場合、デバイス マネージャを起動すると以下のように『PCI デバイス』が『ほかのデバイス』の下に！マーク付きで表示されます。

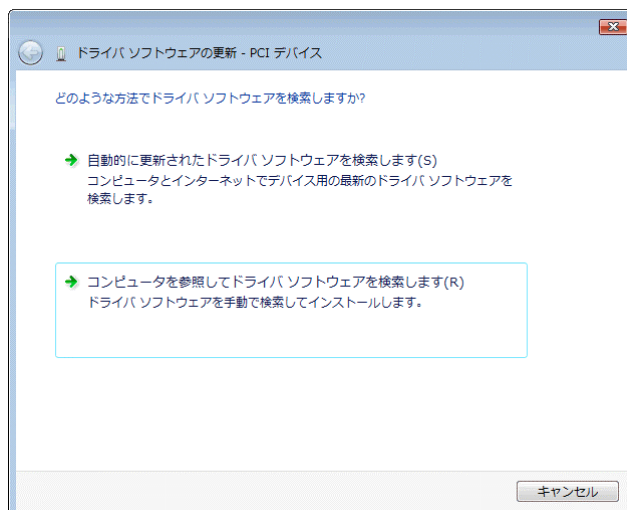


- 
-  デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [コントロール パネル] を選択し、左側のペインで [クラシック表示] を選択し、[デバイス マネージャ] をダブルクリックしてください。
- 

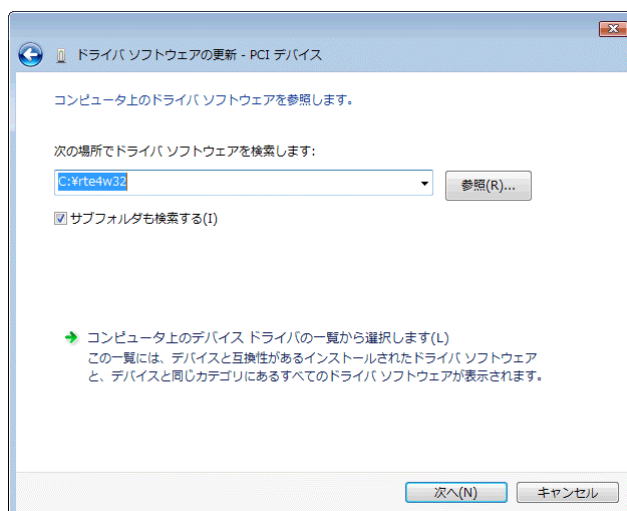
- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。

- 
-  Administrator 権限を持たないユーザでログインした場合、インストール手順の途中で Administrator 権限を持つユーザ（管理者）のユーザ名とパスワードの入力が必要になります。
- 

- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。
- 3) デバイス マネージャで『PCI デバイス』を選択し [操作] メニューから [ドライバ ソフトウェアの更新(P)...] を選択してください。
- 4) 『ドライバ ソフトウェアの更新』ダイアログが表示されますので、[コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します(R)] をクリックしてください。



- 5) 次に下記のダイアログが開きますので、[次の場所でドライバソフトウェアを検索します:] のエディット・ボックスに RTE for WIN32 をインストールしたディレクトリを入力して、[次へ(N)] ボタンをクリックしてください。



- 6) これ以降の手順は、『5.5.1 PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』の15)からの手順と同じです。

### 5.5.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『PCI デバイス』もしくは『RTE PCI Host Interface Card or RTE-PC Series』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、デバイス・マネージャに『PCI デバイス』もしくは『RTE PCI Host Interface Card or RTE-PC Series』が表示されなくなります。

このような場合、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスクリーン(A)] を選択してください。PC-CARD が検出された以降の手順は、『5.5.1 PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』と同様です。

## 5.6. Windows Vista 環境における USB ドライバの組み込み

この章では、Windows Vista 使用時の USB 用ドライバの組み込み手順について説明します。

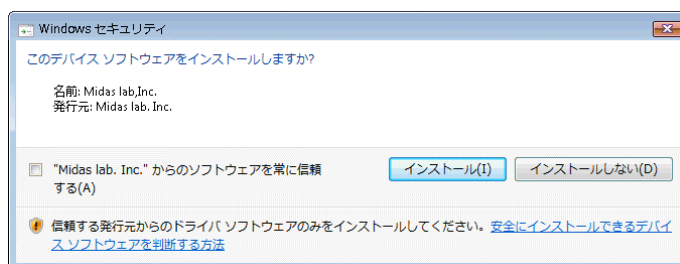


**USB I/F でご使用になる場合、USB1.1 での使用は推奨しません。デバッグの反応が遅く効率的なデバッグに向かないためです。**

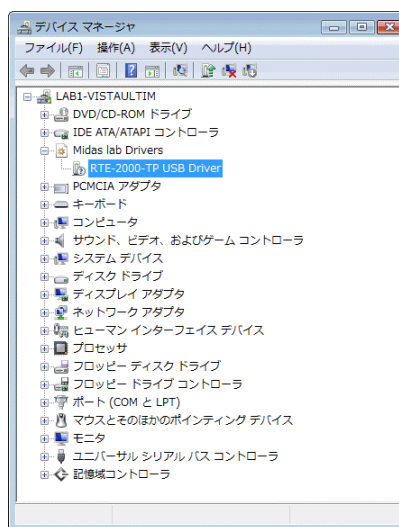
### 5.6.1. USB 経由で初めてホストに接続した場合

RTE-2000(H)-TP を USB 経由で初めてホストに接続した場合のドライバの組み込み手順は、PCI ボードの場合と『Windows セキュリティ』で表示されるダイアログ以外は同じですので『5.5.1 PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』を参照してください。

『Windows セキュリティ』ダイアログは下記のものが表示されますので、[インストール(I)] ボタンをクリックしてください。



正常に USB ドライバが組み込まれた時のデバイス・マネージャの様子を下図に示します。



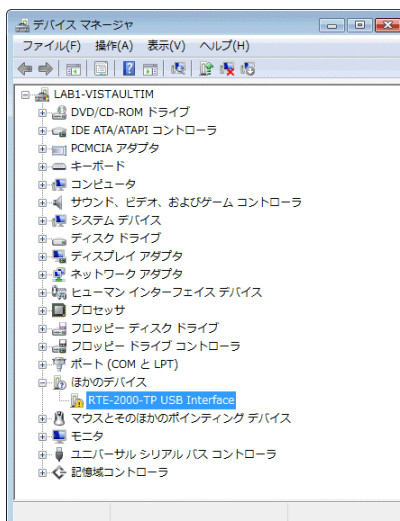
**デバイス マネージャは次の手順で起動できます。**

[スタート メニュー] → [コントロール パネル] を選択し、左側のペインで [クラシック表示] を選択し、[デバイス マネージャ] をダブルクリックしてください。

### 5.6.2. ドライバが組み込まれていない場合の後のドライバの組み込み

USB ドライバの組み込み中にキャンセルした場合、USB ドライバが組み込まれていない状態になります。この時のデバイス・マネージャの様子を次図に示します。





このような状態の場合は、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスキャン(A)] を選択するか、RTE-2000(H)-TP から USB ケーブルを抜き、少し待ってから再度 USB ケーブルを挿してください。すると『新しいハードウェアが見つかりました』ダイアログが表示されます。これ以降の手順は『5.6.1 USB 経由で初めてホストに接続した場合』と同様です。

#### 5.6.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で USB ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合、RTE-2000(H)-TP を示す USB デバイスがデバイス・マネージャに表示されなくなります。

このような場合は、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスキャン(A)] を選択するか、RTE-2000(H)-TP から USB ケーブルを抜き、少し待ってから再度 USB ケーブルを挿してください。すると『新しいハードウェアが見つかりました』ダイアログが表示されます。これ以降の手順は『5.6.1 USB 経由で初めてホストに接続した場合』と同様です。

### 5.7. Windows XP 環境における PC-CARD ドライバの組み込み

この章では、Windows XP 使用時の PC-CARD 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。



本書では、区別の必要のない場合は、Windows XP Professional と Windows XP Home Edition を総称して Windows XP と表記します。



既に京都マイクロコンピュータ株式会社（以降 KMC 社）製の PC-CARD 用ドライバを組み込んでいる場合は、弊社の PC-CARD インターフェースを挿してもドライバの組み込みウィザードが起動しない場合があります。このような場合は、そのまま KMC 社製のドライバをご使用ください。KMC 社製のドライバでも、Rte for WIN32 は正常に動作します。

また、逆に弊社の PC-CARD 用ドライバを既に組み込んでいる場合に、KMC 社製の PC-CARD をお使いになる場合は、ドライバを弊社製から KMC 社製のものに入れ換えてください。

詳しくは、『5.7.4 KMC 社製 PC-CARD ドライバ』を参照してください。

#### 5.7.1. PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合

PC-CARD インターフェースを初めて PC-CARD ドライブに挿した場合のドライバの組み込み手順を下記に示します。

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。



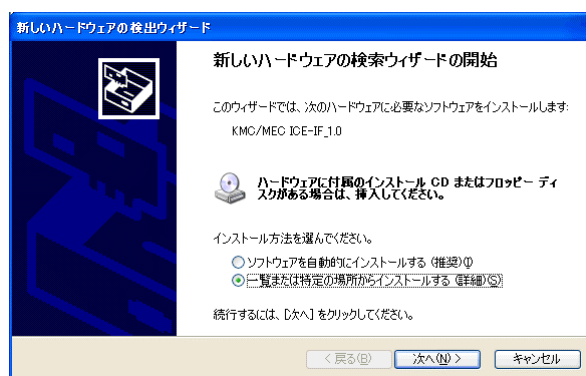
Windows XP Home Edition では、アカウントの種類がコンピュータの管理者に設定されているユーザが、Administrator 権限を持つユーザになります。

- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿す前に、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。

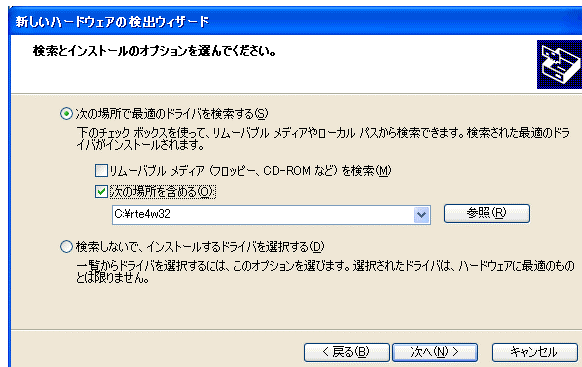


Rte for WIN32 のインストールは、下記の『新しいハードウェアの検出ウィザード』が起動している状態で行って頂いても構いません。

- 3) PC-CARD(PCMCIA)インターフェースを PC-CARD 用のソケットに差し込みます。しばらくすると『新しいハードウェアの検出ウィザード』ダイアログが表示されるので、『一覧または特定の場所からインストールする（詳細）』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



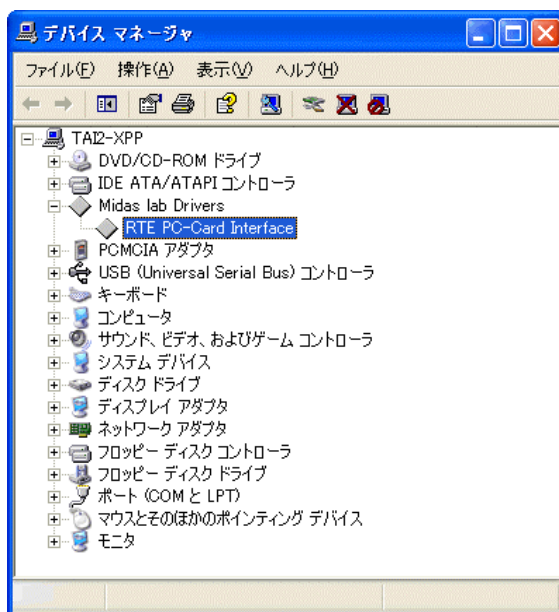
- 4) 次のダイアログが表示されますので、『次の場所を含める』だけを選択し、ディレクトリ名として Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを入力するか、参照ボタンをクリックして Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを指定して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。




- 5) ドライバ・ファイルのコピーが行われた後、次のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。



以上で、PC-CARD の検出とドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。

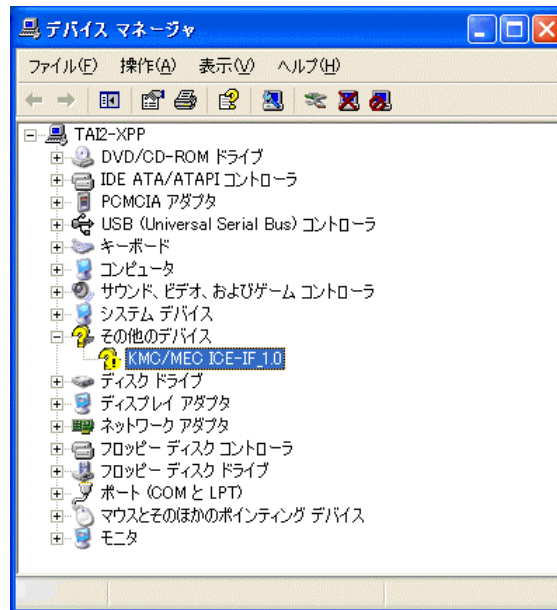



-  デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [マイ コンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

### 5.7.2. ドライバが組み込まれていない状態での後からのドライバの組み込み

ドライバの組み込みの手順を間違えた等の理由で、ドライバの組み込みを行わなかった場合に、後からドライバを組み込む手順を以下に説明します。

ドライバが組み込まれていない場合、デバイス マネージャを起動すると以下のように『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』に！マークが表示されます。

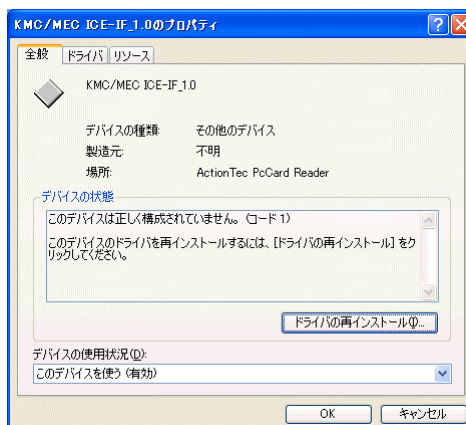


-  デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [マイ コンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

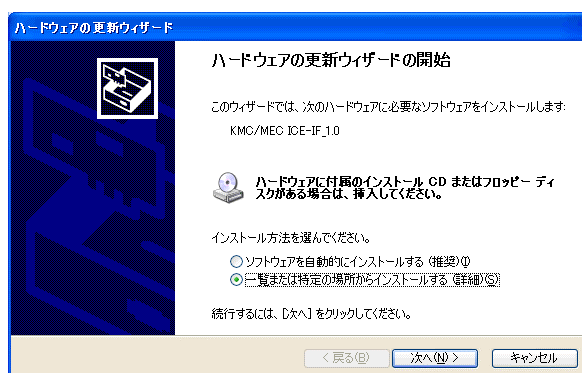
- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。

-  Windows XP Home Edition では、アカウントの種類がコンピュータの管理者に設定されているユーザが、Administrator 権限を持つユーザになります。

- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。
- 3) デバイス マネージャで『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』を選択し [操作] メニューから [プロパティ] を選択してください。
- 4) 『KMC/MEC-ICE-IF 1.0 のプロパティ』ダイアログが表示されますので、[ドライバの再インストール] ボタンをクリックしてください。



- 5) 『ハードウェアの更新ウィザード』ダイアログが表示されます。これ以降の手順は、『5.7.1 PC-CARD インターフェイスを初めてスロットに挿した場合』と同様です。



### 5.7.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』もしくは『RTE PC-Card Interface』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、デバイス・マネージャに『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』もしくは『RTE PC-Card Interface』が表示されなくなります。

このような場合、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスキキャン] を選択するか、PC-CARD を一旦ソケットから抜いてから再度挿しなおしてください。PC-CARD が検出された以降の手順は、『5.7.1 PC-CARD インターフェイスを初めてスロットに挿した場合』と同様です。



**デバイス・マネージャは次の手順で起動できます。**

[スタートメニュー] → [マイコンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス・マネージャ] ボタンをクリックします。

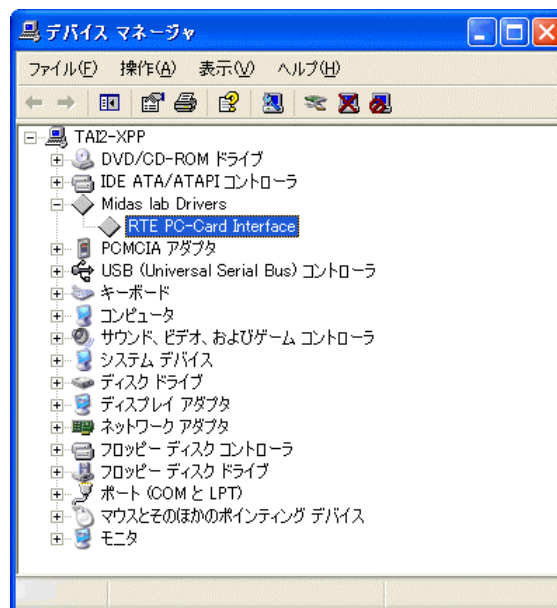
#### 5.7.4. KMC 社製 PC-CARD ドライバ


この章では、既に Rte for WIN32 用の PC-CARD ドライバが組み込まれている状態で、京都マイクロコンピュータ株式会社（以降 KMC 社）製の PARTNER-ETII/J/N64 対応 PC-CARD 用ドライバへ入れ換える手順を示します。

Rte for WIN32 は、KMC社製のドライバが組み込まれている状態でも正常に動作します。しかし、KMC社のPARTNER-ETII/J/N64 はKMC社製のドライバが組み込まれていないと動作しません。したがって、同じパソコン上でRte for WIN32 とPARTNER-ETII/J/N64 をPC-CARDインターフェースでご使用になる場合は、KMC社製のPC-CARDドライバを組み込む必要があります。

以下では、既に Rte for WIN32 用の PC-CARD ドライバが既に組み込まれている状態から、KMC 社製のドライバへ入れ換える手順を示します。

RTE for WIN32 用の PC-CARD ドライバが組み込まれている場合、デバイス マネージャを起動すると以下のように『RTE PC-Card Interface』が表示されます。



 デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [マイ コンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。

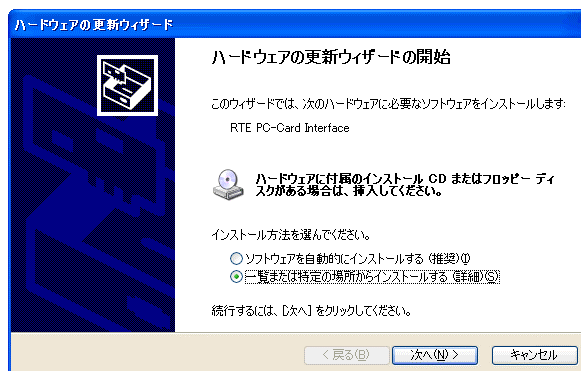
 Windows XP Home Edition では、アカウントの種類がコンピュータの管理者に設定されているユーザが、Administrator 権限を持つユーザになります。

- 2) KMC 社製の PC-CARD ドライバのインストーラを実行し、ドライバ・ファイルを解凍してください。
- 3) デバイス マネージャで『RTE PC-Card Interface』を選択し [操作] メニューから [プロパティ] を選択してください。

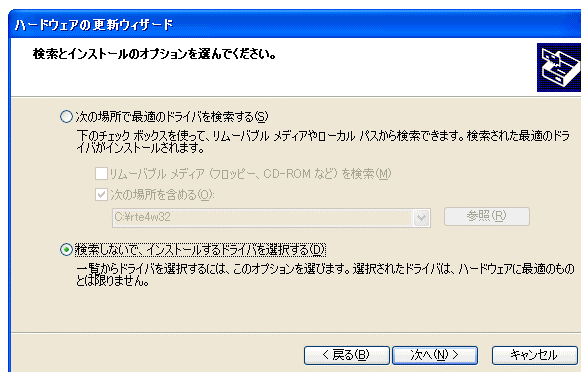
- 4) 『RTE PC-Card Interface のプロパティ』ダイアログが表示されますので、[ドライバ] タブを選択し [ドライバの更新] ボタンをクリックしてください。



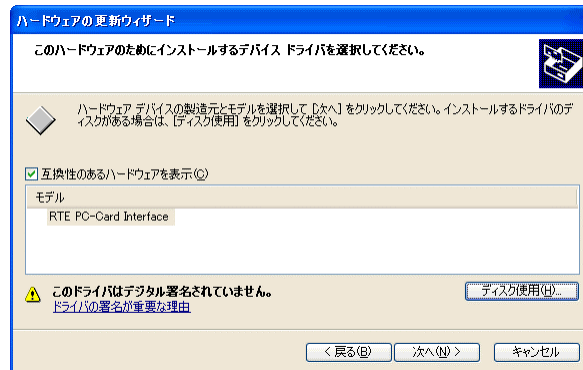
- 5) 『ハードウェアの更新ウィザード』ダイアログが表示されますので『一覧または特定の場所からインストールする (詳細)』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



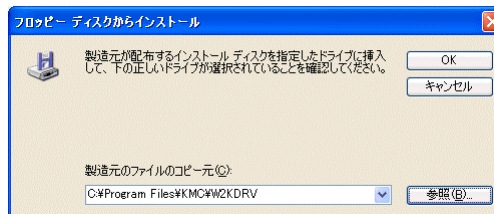
- 6) 次のダイアログが表示されますから、『検索しないで、インストールするドライバを選択する』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



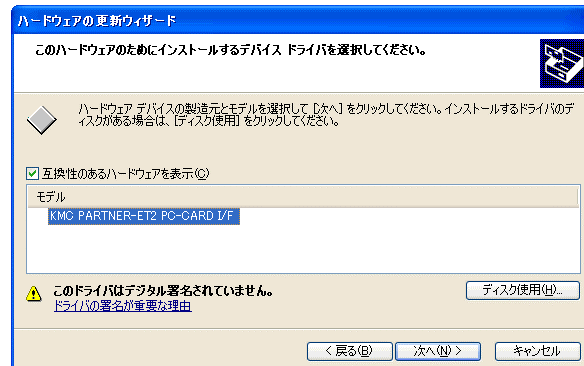
- 7) 次のダイアログで [ディスク使用] ボタンをクリックしてください。



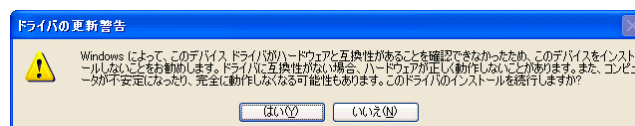
- 8) 次のダイアログで『製造元のファイルのコピー元』に KMC 社製 PC-CARD ドライバの解凍先ディレクトリを入力するか、参照ボタンをクリックして KMC 社製 PC-CARD ドライバの解凍先ディレクトリを指定して、[OK] ボタンをクリックしてください。



- 9) 次のダイアログで、KMC 社製ドライバを選択して [次へ>] ボタンをクリックしてください。

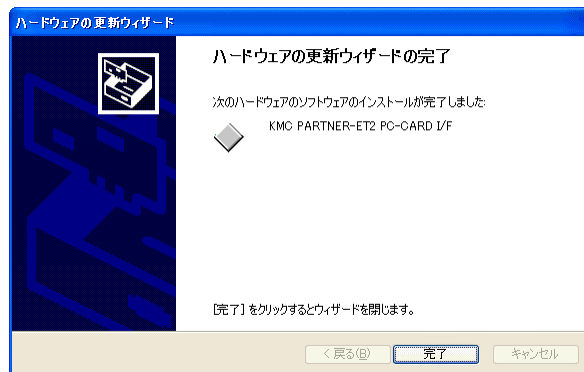


- 10) 次のダイアログで、[はい] ボタンをクリックしてください。

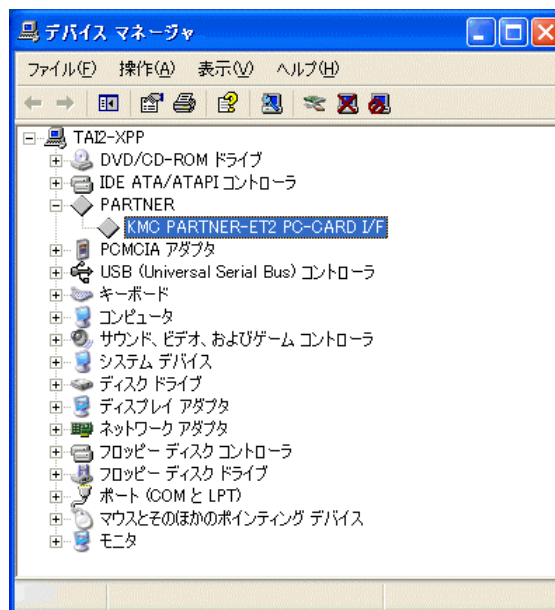





- 11) ドライバ・ファイルのコピーが行われた後、次のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。



以上でドライバの入れ換えが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。



- 
-  デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [マイ コンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。
-

## 5.8. Windows XP 環境における PCI ドライバの組み込み

この章では、Windows XP 使用時の PCI 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。



**本書では、区別の必要のない場合は、Windows XP Professional と Windows XP Home Edition を総称して Windows XP と表記します。**

### 5.8.1. PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合

RTE シリーズの PCI ボードを初めて PCI バスに挿した後、Windows XP を起動した場合の手順を以下に説明します。

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。



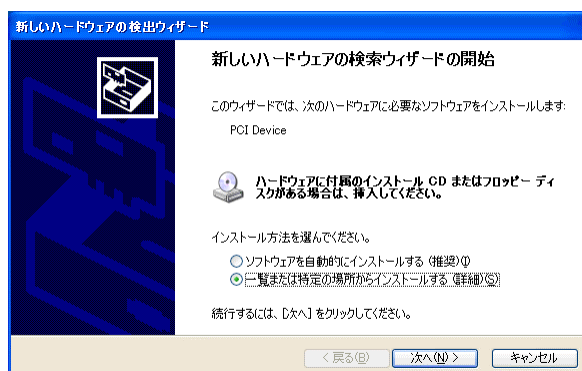
**Windows XP Home Edition では、アカウントの種類がコンピュータの管理者に設定されているユーザが、Administrator 権限を持つユーザになります。**

- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを先に行ってください。

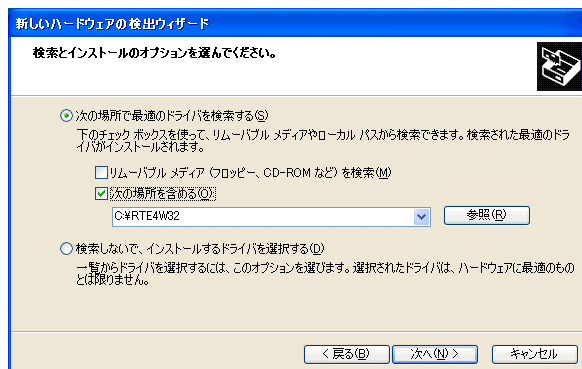


**Rte for WIN32 のインストールは、下記の『新しいハードウェアの検出ウィザード』が起動している状態で行って頂いても構いません。**

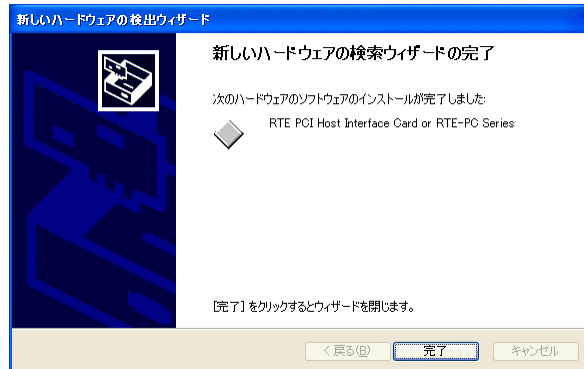
- 3) しばらくすると『新しいハードウェアの検出ウィザード』ダイアログが表示されるので、『一覧または特定の場所からインストールする（詳細）』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



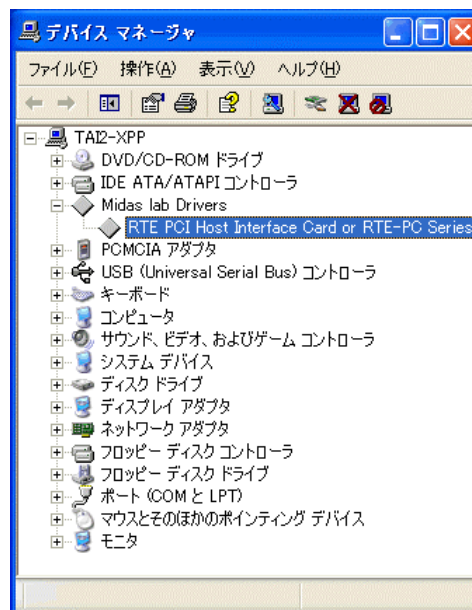
- 4) 次のダイアログが表示されますから、『次の場所を含める』だけを選択し、ディレクトリ名として Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを入力するか、参照ボタンをクリックして Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを指定して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。




- 5) ドライバ・ファイルのコピーが行われた後、次のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。



以上で、ボードの検出とドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。

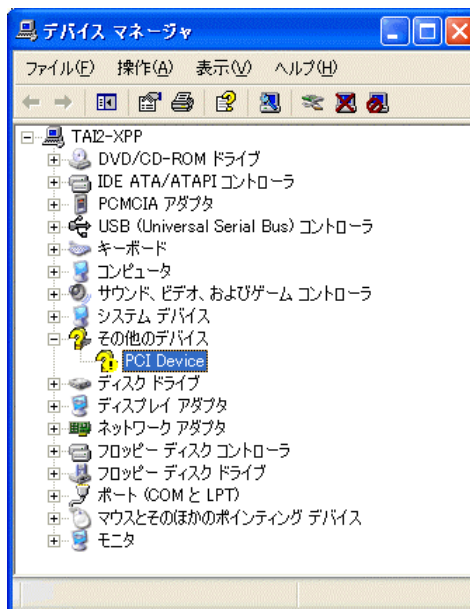



- 
-  デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [マイ コンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。
-

### 5.8.2. ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み

Windows XP をインストールする前から PCI ボードが PCI バスに挿されていた場合や、手順を誤ってドライバの組み込みを行わなかった場合に、後からドライバを組み込む手順を以下に説明します。

ドライバが組み込まれていない場合、デバイス マネージャを起動すると以下のように『PCI Device』に！マークが表示されます。



 デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [マイ コンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

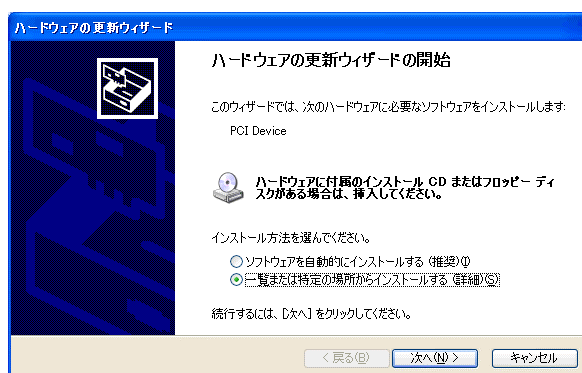
- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。

 Windows XP Home Edition では、アカウントの種類がコンピュータの管理者に設定されているユーザが、Administrator 権限を持つユーザになります。

- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを先に行ってください。
- 3) デバイス マネージャで『PCI Device』を選択し [操作] メニューから [プロパティ] を選択してください。
- 4) 『PCI Device のプロパティ』ダイアログが表示されますので、[ドライバの再インストール] ボタンをクリックしてください。



- 5) 『ハードウェアの更新ウィザード』ダイアログが表示されます。これ以降の手順は、『5.8.1 PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』と同様です。



### 5.8.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『PCI Device』もしくは『RTE PCI Host Interface Card or RTE-PC Series』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、『PCI Device』もしくは『RTE PCI Host Interface Card or RTE-PC Series』が表示されなくなります。

このような場合、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスクリーン] を選択してください。PCI ボードが検出された以降の手順は、『5.8.1 PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』と同様です。



**デバイス マネージャは次の手順で起動できます。**

[スタートメニュー] → [マイ コンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

### 5.9. Windows XP 環境における USB ドライバの組み込み

この章では、Windows XP 使用時の USB 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。



本書では、区別の必要のない場合は、Windows XP Professional と Windows XP Home Edition を総称して Windows XP と表記します。

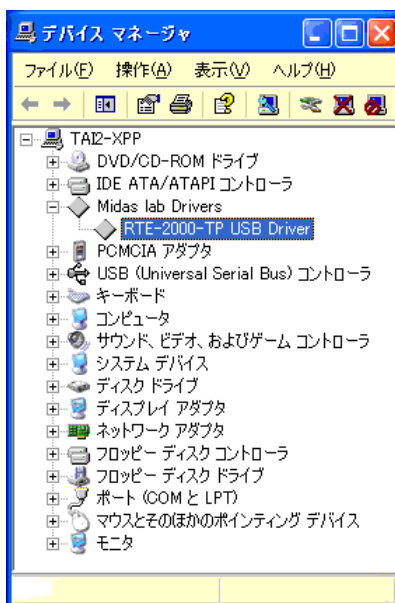


USB I/F でご使用になる場合、USB1.1 での使用は推奨しません。デバッグの反応が遅く効率的なデバッグに向かないためです。

#### 5.9.1. USB 経由で初めてホストに接続した場合

RTE-2000(H)-TP を USB 経由で初めてホストに接続した場合のドライバの組み込み手順は、PCI ボードの場合と同じです。『5.8.1 PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』を参照してください。

正常に USB ドライバが組み込まれた時のデバイス・マネージャの様子を下図に示します。

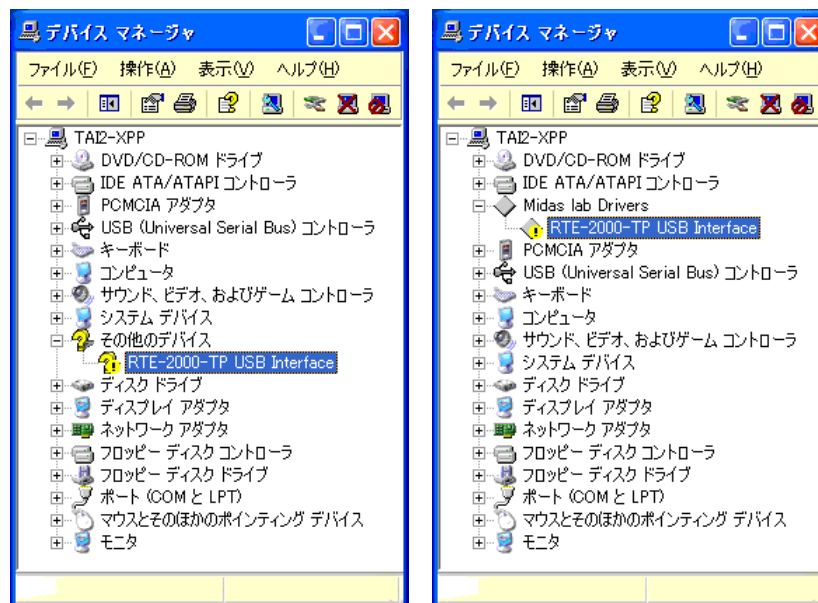


デバイス マネージャは次の手順で起動できます。

[スタート メニュー] → [マイ コンピュータ] を選択した状態で、マウスを右クリックして [プロパティ] を選択します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

#### 5.9.2. ドライバが組み込まれていない場合の後のドライバの組み込み

USB ドライバの組み込み中にキャンセルした場合、USB ドライバが組み込まれていない状態になります。この時のデバイス・マネージャの様子を次図に示します。



このような状態の場合は、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスキャン] を選択するか、RTE-2000(H)-TP から USB ケーブルを抜き、少し待ってから再度 USB ケーブルを挿してください。すると『新しいハードウェアの検出ウィザード』が起動します。これ以降の手順は『5.9.1 USB 経由で初めてホストに接続した場合』と同様です。

### 5.9.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で USB ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合、RTE-2000(H)-TP を示す USB デバイスがデバイス・マネージャに表示されなくなります。

このような場合は、デバイス・マネージャの [操作] メニューから [ハードウェア変更のスキャン] を選択するか、RTE-2000(H)-TP から USB ケーブルを抜き、少し待ってから再度 USB ケーブルを挿してください。すると『新しいハードウェアの検出ウィザード』が起動します。これ以降の手順は『5.9.1 USB 経由で初めてホストに接続した場合』と同様です。

### 5.10. Windows98 環境における PC-CARD ドライバの組み込み

この章では、Windows 98 使用時の PC-CARD 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

PC-CARD インターフェースには特別なドライバは必要ないため、標準で用意されているドライバを組み込みます。

#### 5.10.1. PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合

PC-CARD インターフェースを初めて PC-CARD ドライブに挿した場合の標準ドライバの組み込み手順を下記に示します。

- 1) PC-CARD(PCMCIA)インターフェースを PC-CARD 用のソケットに差し込みます。すると新しいハードウェアが検出された、という内容のダイアログが表示された後、暫くすると『新しいハードウェアの追加ウィザード』ダイアログが表示されるので、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



PC-CARD を挿しても『新しいハードウェア』ダイアログが表示されない場合や、ドライバが組み込まれた時に『ブーッ』というような音がした場合は、PC-CARD のカードサービスが正常に動作していない可能性があります。『5.24. PC-CARD が認識されない時のヒント(Windows 95/98)』を参照してカードサービスが正常に動作するようにしてください。

- 2) 次のダイアログが表示されますから、『特定の場所にある全てのドライバー一覧を作成し、インストールするドライバを選択する』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。

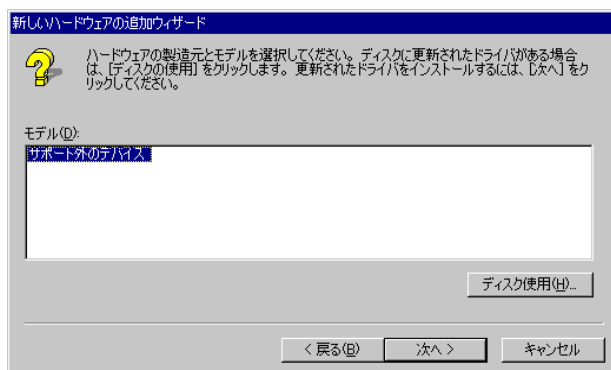


- 3) 次のダイアログで『その他のデバイス』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。

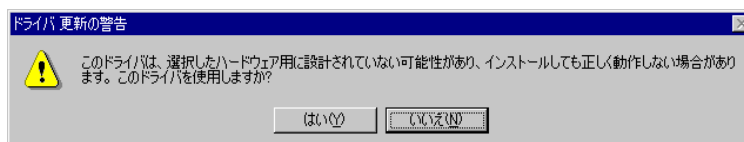




- 4) 次のダイアログで『サポート外のデバイス』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 5) 『ドライバ更新の警告』ダイアログが表示されますので、[はい (Y)] ボタンをクリックしてください。



- 6) 次のダイアログで [次へ >] ボタンをクリックしてください。



『ドライバのある場所』で示されるパスは、上記の図と異なる場合があります。

7) 次のダイアログで [完了] ボタンをクリックしてください。



以上で、ボードの検出とドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動し『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タブで確認できます。



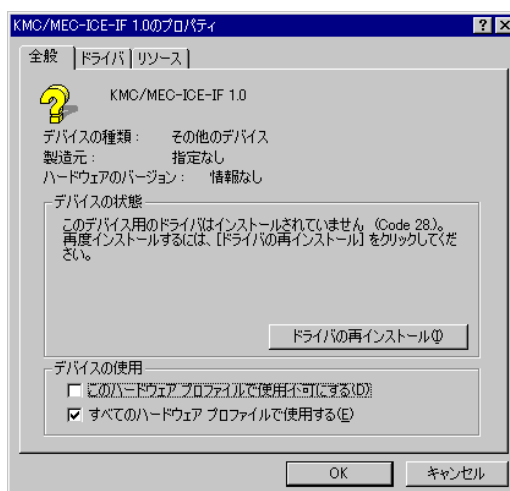
### 5.10.2. ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み

ドライバの組み込みの手順を間違えた等の理由で、ドライバの組み込みを行わなかった場合に、後からドライバを組み込む手順を以下に説明します。

ドライバが組み込まれていない場合、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動し『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タブを選択し、『その他のデバイス』を選択すると以下のように『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』に！マークが表示されます。



- 1) 上のダイアログで、『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』を選択し [プロパティ(P)] ボタンをクリックしてください。
- 2) 『KMC/MEC-ICE-IF 1.0 のプロパティ』ダイアログが表示されますので、[ドライバの再インストール(I)] ボタンをクリックしてください。または、『ドライバ』タブの [ドライバの更新(U)] ボタンをクリックしてください。



- 3) 『デバイス ドライバの更新ウィザード』ダイアログが表示されます。これ以降の手順は、『5.10.1.PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合』と同様です。



### 5.10.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』もしくは『サポート外のデバイス』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、『システムのプロパティ』ダイアログの『デバイス マネージャ』タブに『その他のデバイス』が表示されなくなるか、『その他のデバイス』は表示されるがその中に『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』もしくは『サポート外のデバイス』が表示されなくなります。

このような場合、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『ハードウェアの追加』を起動してプラグ アンド プレイ機器の検索を行うか、PC-CARD を一旦ソケットから抜いてから再度挿しなおしてください。PC-CARD が検出された以降の手順は、『5.10.1.PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合』と同様です。

### 5.11. Windows98 環境における PCI ドライバの組み込み

この章では、Windows 98 使用時の PCI 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

RTE シリーズの PCI ボードは特別なドライバは必要ないため、標準で用意されているドライバを組み込みます。

#### 5.11.1. PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合

RTE シリーズの PCI ボードを初めて PCI バスに挿した後、Windows98 を起動した場合の手順を以下に説明します。

- 1) Windows98 を起動した時、新しいハードウェアが検出された、という内容のダイアログが表示された後、暫くすると『新しいハードウェアの追加ウィザード』ダイアログが表示されるので、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



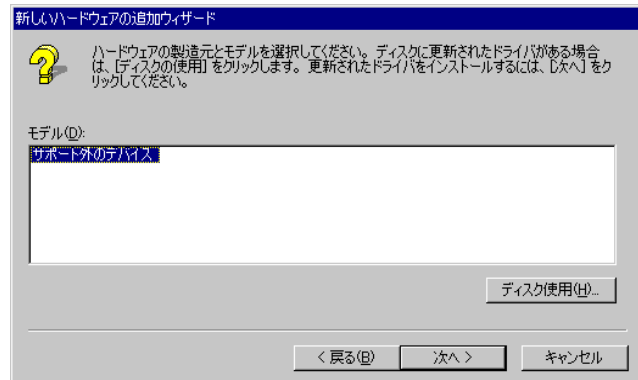
- 2) 次のダイアログが表示されますから、『特定の場所にある全てのドライバー一覧を作成し、インストールするドライバを選択する』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



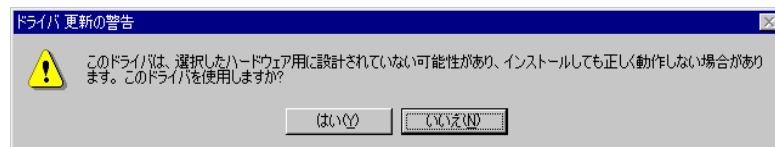
- 3) 次のダイアログで『その他のデバイス』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 4) 次のダイアログで『サポート外のデバイス』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。




- 5) 『ドライバ更新の警告』ダイアログが表示されますので、[はい (Y)] ボタンをクリックしてください。



- 6) 次のダイアログで [次へ >] ボタンをクリックしてください。



 『ドライバのある場所』で示されるパスは、上記の図と異なる場合があります。

- 7) 次のダイアログで [完了] ボタンをクリックしてください。



以上で、ボードの検出とドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動し『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タブで確認できます。



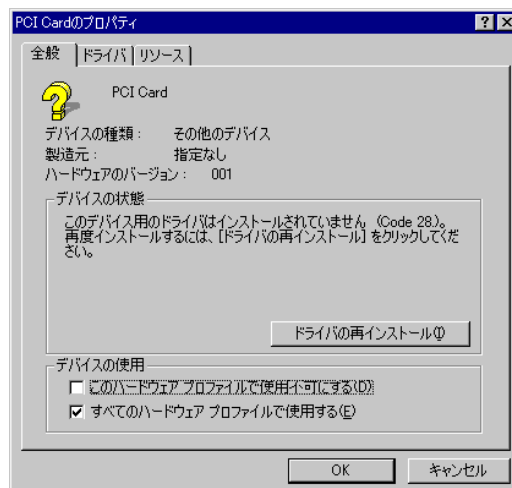
### 5.11.2. ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み

Windows98 をインストールする前からボードが PCI バスに挿されていた場合や、手順を誤ってドライバの組み込みを行わなかった場合に、後からドライバを組み込む手順を以下に説明します。

ドライバが組み込まれていない場合、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動し『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タブを選択し、『その他のデバイス』を選択すると以下のように『PCI Card』に！マークが表示されます。



- 1) 上のダイアログで、『PCI Card』を選択し [プロパティ(P)] ボタンをクリックしてください。
- 2) 『PCI Card のプロパティ』ダイアログが表示されますので、[ドライバの再インストール(I)] ボタンをクリックしてください。または、『ドライバ』タブの [ドライバの更新(U)] ボタンをクリックしてください。





- 3) 『デバイス ドライバの更新ウィザード』ダイアログが表示されます。これ以降の手順は、『5.11.1.PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』と同様です。



### 5.11.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『PCI Card』もしくは『サポート外のデバイス』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、『システムのプロパティ』ダイアログの『デバイス マネージャ』タブに『その他のデバイス』が表示されなくなるか、『その他のデバイス』は表示されるがその中に『PCI Card』もしくは『サポート外のデバイス』が表示されなくなります。

このような場合、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『ハードウェアの追加』を起動してプラグ アンド プレイ機器の検索を行ってください。PCI ボードが検出された以降の手順は、『5.11.1.PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』と同様です。

## 5.12. Windows98-Second Edition(-SE)環境における USB ドライバの組み込み

この章では、Windows 98-SE 使用時の USB 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。



USB I/F は Windows98-SE より古い Windows98 には対応していません。



USB I/F でご使用になる場合、USB1.1 での使用は推奨しません。デバッガの反応が遅く効率的なデバッグに向かないためです。

### 5.12.1. USB 経由で初めてホストに接続した場合

RTE-2000(H)-TP を USB 経由で初めてホストに接続した場合のドライバの組み込み手順を以下に説明します。

- 1) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、RTE-2000(H)-TP とホストを USB ケーブルで接続する前に、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。



Rte for WIN32 のインストールは、下記の『新しいハードウェアの追加ウィザード』が起動している状態で行って頂いても構いません。

- 2) RTE-2000(H)-TP とホストを USB ケーブルで接続します。しばらくすると『新しいハードウェアの追加ウィザード』ダイアログが表示されるので、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 3) 次のダイアログが表示されますので、『使用中のデバイスに最適なドライバを検索する』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 4) 次のダイアログが表示されますので、『検索の場所の指定』だけを選択し、ディレクトリ名として Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを入力するか、参照ボタンをクリックして Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを指定して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 5) 次のダイアログが表示されますので [次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 6) ドライバ・ファイルのコピーが行われた後、次のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。



以上で、ドライバの組み込みが終わりました。正常に USB ドライバが組み込まれた時のデバイス・マネージャの様子を次図に示します。



デバイス マネージャは次の手順で表示できます。

[スタート メニュー] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動し『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タブを選択します

#### 5.12.2. ドライバが組み込まれていない場合の後のドライバ組み込み

USB ドライバの組み込みを途中でキャンセルした場合や、デバイス・マネージャ上でドライバを削除してしまった場合、デバイス・マネージャに RTE-2000(H)-TP 用の USB ドライバが表示されなくなります。

このような場合は、デバイス・マネージャの『更新』ボタンをクリックするか、RTE-2000(H)-TP から USB ケーブルを抜き、少し待ってから再度 USB ケーブルを挿してください。しばらくすると『新しいハードウェアの追加ウィザード』ダイアログが表示されます。以降の手順は『5.12.1 USB 経由で初めてホストに接続した場合』と同じです。

#### 5.12.3. ドライバが組み込みに異常がある場合

何らかの原因により USB ドライバが正常に組み込まれていない場合、デバイス・マネージャに下図のように表示されることがあります。



このような場合は、デバイス・マネージャで『RTE-2000-TP USB Interface』を選択した状態で、『プロパティ(R)』ボタンをクリックしてください。

すると『RTE-2000-TP USB Interface のプロパティ』ダイアログが開きますので、『ドライバの

再インストール(I) ボタンをクリックしてください。すると『デバイスドライバの更新ウィザード』ダイアログが表示されます。以降の手順は『5.12.1 USB 経由で初めてホストに接続した場合』と同じです。



### 5.13. Windows 2000 環境における PC-CARD ドライバの組み込み

この章では、Windows 2000 使用時の PC-CARD 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。



既に京都マイクロコンピュータ株式会社（以降 KMC 社）製の PC-CARD 用ドライバを組み込んでいる場合は、弊社の PC-CARD インターフェースを挿してもドライバの組み込みウィザードが起動しない場合があります。このような場合は、そのまま KMC 社製のドライバをご使用ください。KMC 社製のドライバでも、Rte for WIN32 は正常に動作します。

また、逆に弊社の PC-CARD 用ドライバを既に組み込んでいる場合に、KMC 社製の PC-CARD をお使いになる場合は、ドライバを弊社製から KMC 社製のものに入れ換えてください。

詳しくは、『5.13.4 KMC 社製 PC-CARD ドライバ』を参照してください。

#### 5.13.1. PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合

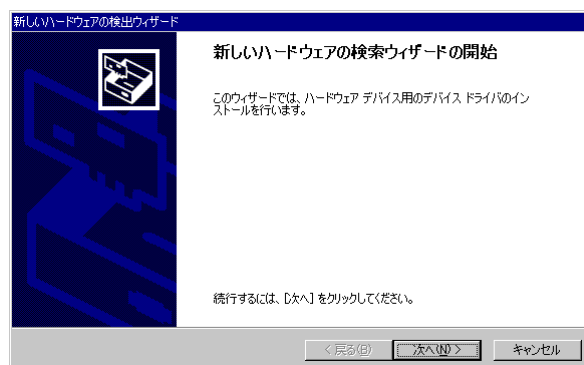
PC-CARD インターフェースを初めて PC-CARD ドライブに挿した場合のドライバの組み込み手順を下記に示します。

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。
- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿す前に、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。

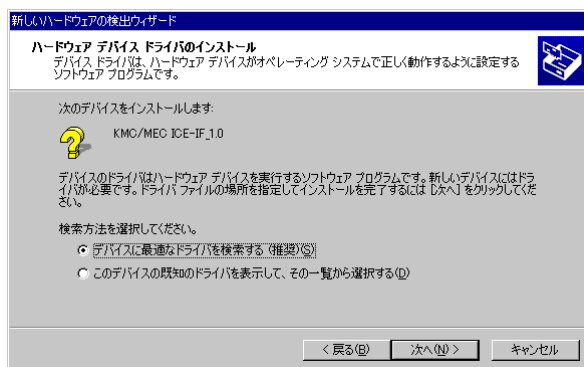


Rte for WIN32 のインストールは、下記の『新しいハードウェアの検出ウィザード』が起動している状態で行っても構いません。

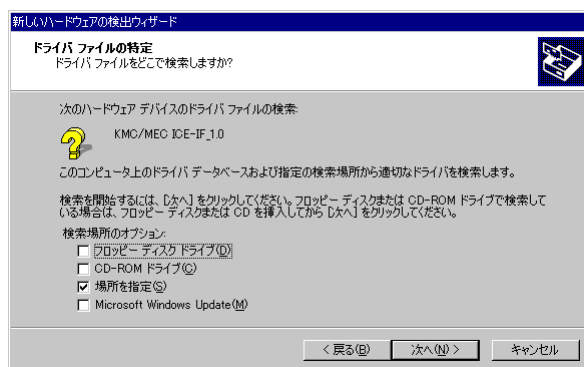
- 3) PC-CARD(PCMCIA)インターフェースを PC-CARD 用のソケットに差し込みます。すると新しいハードウェアが検出された、という内容のダイアログが表示された後、しばらくすると『新しいハードウェアの検出ウィザード』ダイアログが表示されるので、[次へ>] ボタンをクリックしてください。



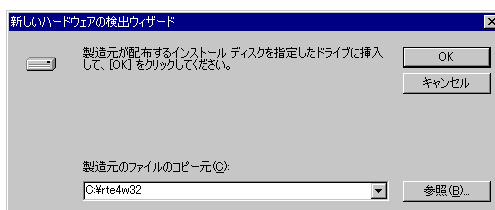
- 4) 次のダイアログが表示されますから、『デバイスに最適なドライバを検索する』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 5) 次のダイアログで『場所を指定』だけを選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。




- 6) 次のダイアログで『製造元のファイルのコピー元』に Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを入力するか、参照ボタンをクリックして Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを指定して、[OK] ボタンをクリックしてください。

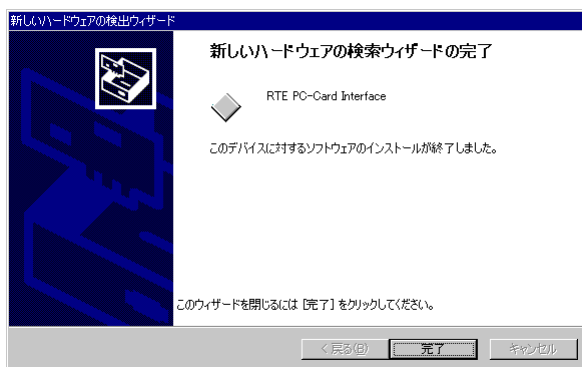


- 7) しばらくドライバ・ファイルの検索が行われた後、次のダイアログが表示されますので、[次へ>] ボタンをクリックしてください。

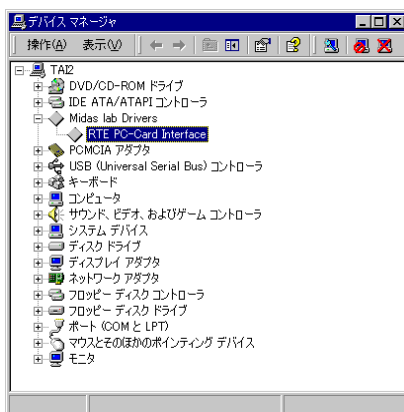



 上記ダイアログで表示されるパスは、Rte for WIN32 をインストールしたディレクトリになります。

- 8) ドライバ・ファイルのコピーが行われた後、次のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。



以上で、ボードの検出とドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。



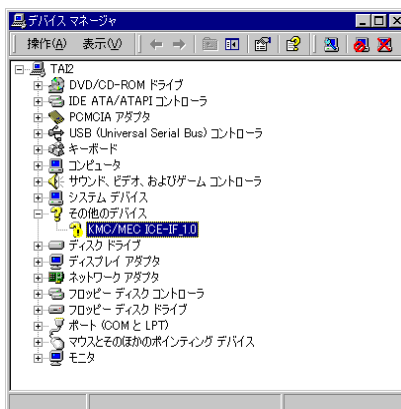
 デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
[スタート メニュー] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。



### 5.13.2. ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み

ドライバの組み込みの手順を間違えた等の理由で、ドライバの組み込みを行わなかった場合に、後からドライバを組み込む手順を以下に説明します。

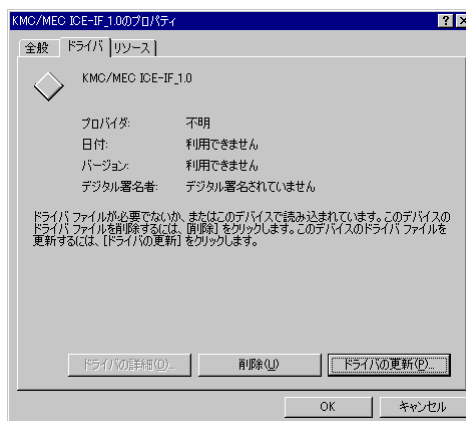
ドライバが組み込まれていない場合、デバイス マネージャを起動すると以下のように『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』に！マークが表示されます。



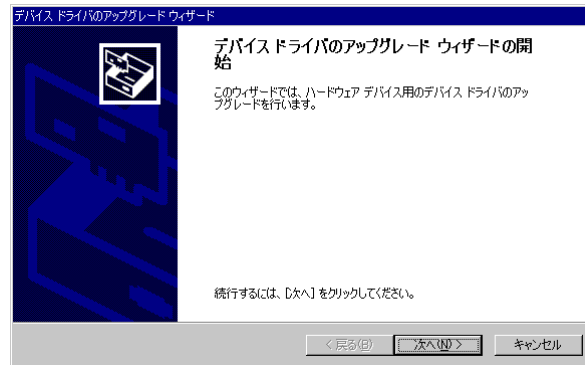
デバイス マネージャは次の手順で起動できます。

[スタート メニュー] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。
- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。
- 3) デバイス マネージャで『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』を選択し [操作] メニューから [プロパティ] を選択してください。
- 4) 『KMC/MEC-ICE-IF 1.0 のプロパティ』ダイアログが表示されますので、[ドライバ] タブを選択し [ドライバの更新] ボタンをクリックしてください。



- 5) 『デバイス ドライバのアップグレード ウィザード』 ダイアログが表示されます。これ以降の手順は、『5.13.1.PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合』と同様です。



### 5.13.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』もしくは『RTE PC-Card Interface』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、デバイス マネージャに『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』もしくは『RTE PC-Card Interface』が表示されなくなります。

このような場合、[スタート メニュー] → [設定] → [コントロールパネル] で『ハードウェアの追加と削除』を起動してプラグ アンド プレイ機器の検索を行うか、PC-CARD を一旦ソケットから抜いてから再度挿しなおしてください。PC-CARD が検出された以降の手順は、『5.13.1.PC-CARD インターフェースを初めてスロットに挿した場合』と同様です。



**デバイス マネージャは次の手順で起動できます。**

[スタート メニュー] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

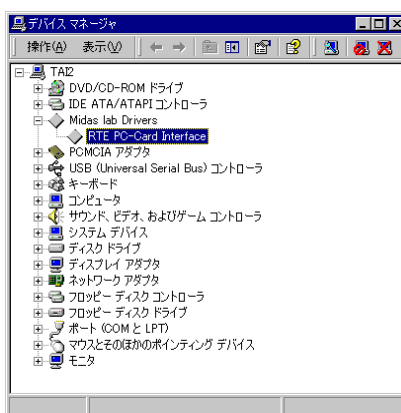
#### 5.13.4.KMC 社製 PC-CARD ドライバ

この章では、既に Rte for WIN32 用の PC-CARD ドライバが組み込まれている状態で、京都マイクロコンピュータ株式会社（以降 KMC 社）製の PARTNER-ETH/J/N64 対応 PC-CARD 用ドライバへ入れ換える手順を示します。

Rte for WIN32 は、KMC社製のドライバが組み込まれている状態でも正常に動作します。しかし、KMC社のPARTNER-ETH/J/N64 はKMC社製のドライバが組み込まれていないと動作しません。したがって、同じパソコン上でRte for WIN32 とPARTNER-ETH/J/N64 をPC-CARDインターフェースでご使用になる場合は、KMC社製のPC-CARDドライバを組み込む必要があります。

以下では、既に Rte for WIN32 用の PC-CARD ドライバが既に組み込まれている状態から、KMC社製のドライバへ入れ換える手順を示します。

RTE for WIN32 用の PC-CARD ドライバが組み込まれている場合、デバイス マネージャを起動すると以下のように『RTE PC-Card Interface』が表示されます。



**デバイス マネージャは次の手順で起動できます。**

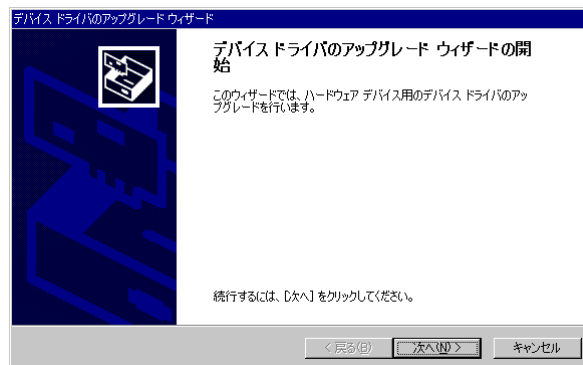
**[スタート メニュー] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。**

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。
- 2) KMC 社製の PC-CARD ドライバのインストーラを実行し、ドライバ・ファイルを解凍してください。
- 3) デバイス マネージャで『RTE PC-Card Interface』を選択し [操作] メニューから [プロパティ] を選択してください。

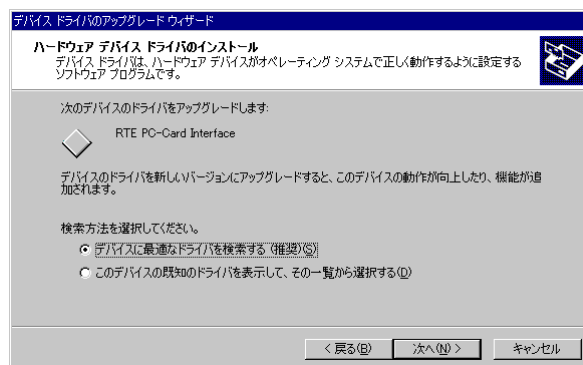
- 4) 『RTE PC-Card Interface のプロパティ』 ダイアログが表示されますので、[ドライバ] タブを選択し [ドライバの更新] ボタンをクリックしてください。



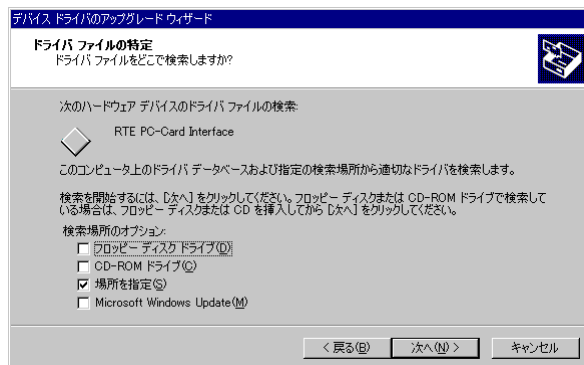
- 5) 『デバイス ドライバのアップグレード ウィザード』 ダイアログが表示されますので [次へ] ボタンをクリックしてください。



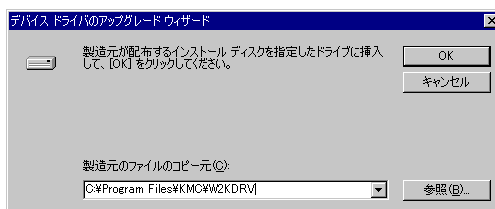
- 6) 次のダイアログが表示されますから、『デバイスに最適なドライバを検索する』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 7) 次のダイアログで『場所を指定』だけを選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



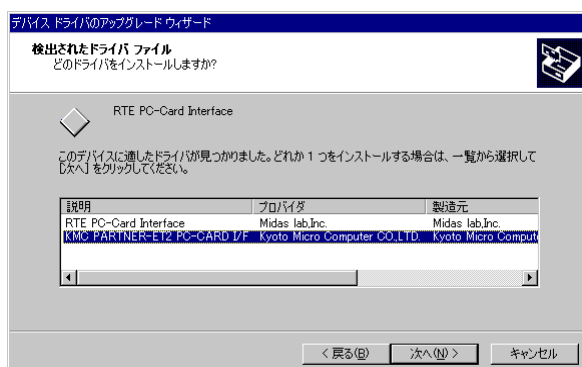
- 8) 次のダイアログで『製造元のファイルのコピー元』に KMC 社製 PC-CARD ドライバの解凍先ディレクトリを入力するか、参照ボタンをクリックして KMC 社製 PC-CARD ドライバの解凍先ディレクトリを指定して、[OK] ボタンをクリックしてください。



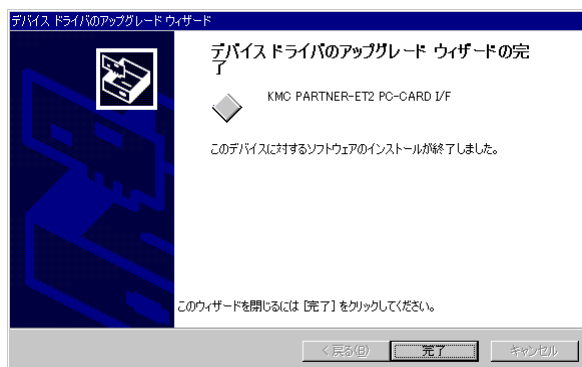
- 9) しばらくドライバ・ファイルの検索が行われた後、次のダイアログが表示されますので、[別のドライバを1つインストールする] チェックボックスをチェックして [次へ>] ボタンをクリックしてください。



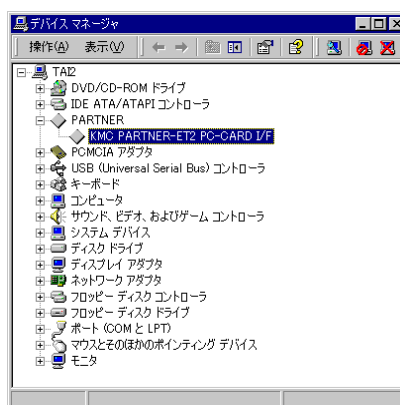
- 10) 次のダイアログで、『検出されたドライバ ファイル』として、Rte for WIN32 用のドライバと KMC 社製のドライバが表示されますので、KMC 社製ドライバを選択して [次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 11) ドライバ・ファイルのコピーが行われた後、次のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。



以上でドライバの入れ換えが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。



デバイス マネージャは次の手順で起動できます。  
 [スタート メニュー] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

#### 5.14. Windows 2000 環境における PCI ドライバの組み込み

この章では、Windows 2000 使用時の PCI 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

##### 5.14.1. PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合

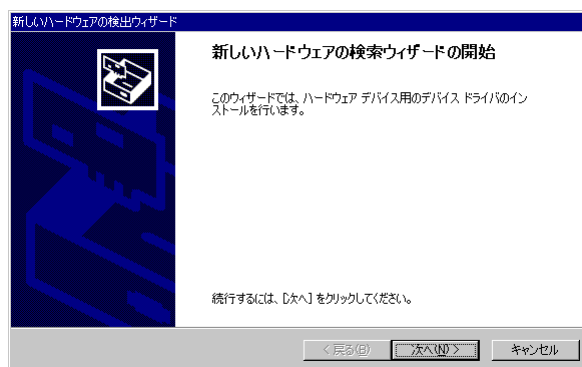
RTE シリーズの PCI ボードを初めて PCI バスに挿した後、Windows 2000 を起動した場合の手順を以下に説明します。

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。
- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。

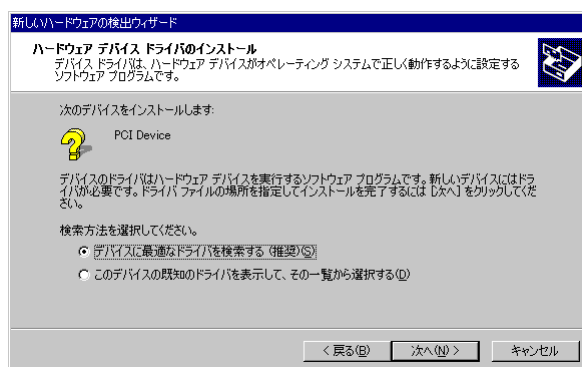


**Rte for WIN32 のインストールは、下記の『新しいハードウェアの検出ウィザード』が起動している状態で行っても構いません。**

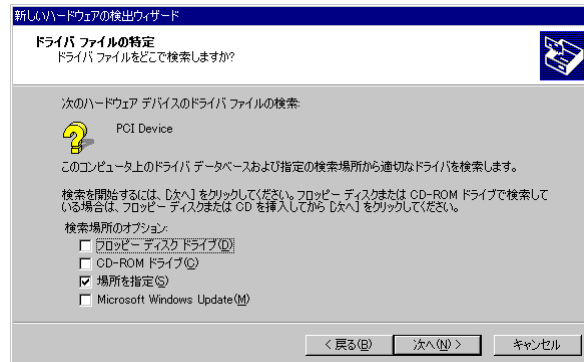
- 3) ログインした時、新しいハードウェアが検出された、という内容のダイアログが表示された後、しばらくすると『新しいハードウェアの検出ウィザード』ダイアログが表示されるので、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



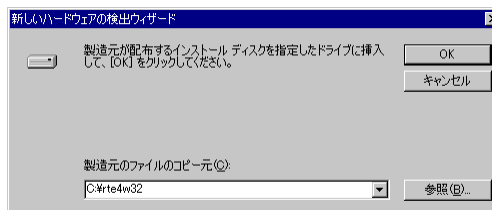
- 4) 次のダイアログが表示されますから、『デバイスに最適なドライバを検索する』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



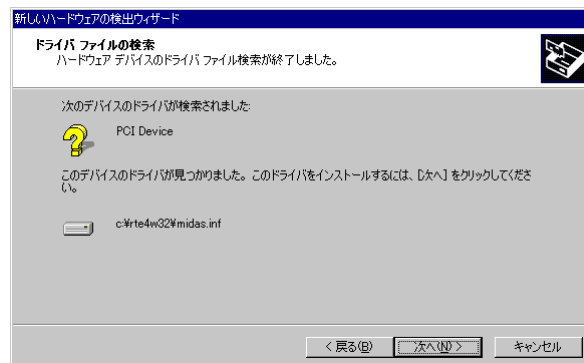
- 5) 次のダイアログで『場所を指定』だけを選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 6) 次のダイアログで『製造元のファイルのコピー元』に Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを入力するか、参照ボタンをクリックして Rte for WIN32 のインストール先ディレクトリを指定して、[OK] ボタンをクリックしてください。



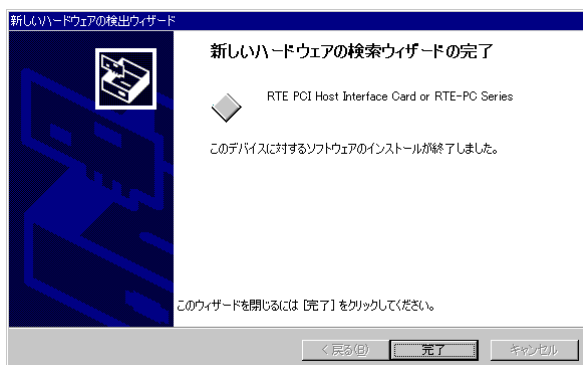
- 7) しばらくドライバ・ファイルの検索が行われた後、次のダイアログが表示されますので、[次へ>] ボタンをクリックしてください。



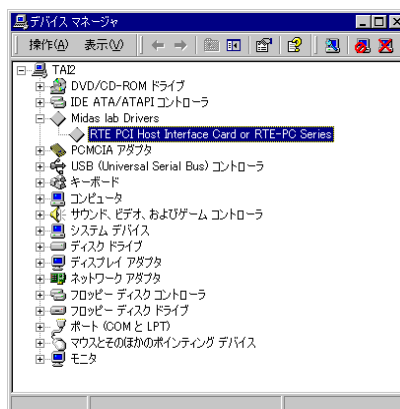
上記ダイアログで表示されるパスは、Rte for WIN32 をインストールしたディレクトリになります。



- 8) ドライバ・ファイルのコピーが行われた後、次のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。



以上で、ボードの検出とドライバの組み込みが終わりました。組み込まれた様子は、デバイス マネージャで確認できます。



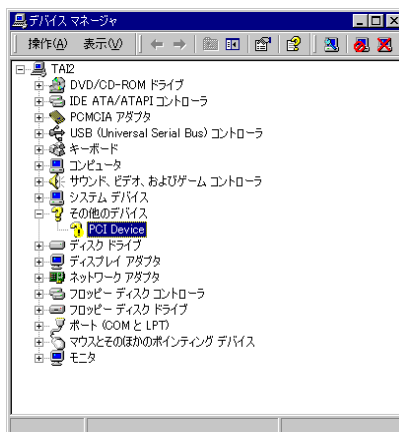
**デバイス マネージャは次の手順で起動できます。**

【スタート メニュー】 → 【設定】 → 【コントロールパネル】 で『システム』を起動します。起動した『システムのプロパティ』で【ハードウェア】タブの【デバイス マネージャ】 ボタンをクリックします。

#### 5.14.2. ドライバが組み込まれていない場合の後からのドライバ組み込み

Windows 2000 をインストールする前からボードが PCI バスに挿されていた場合や、手順を誤ってドライバの組み込みを行わなかった場合に、後からドライバを組み込む手順を以下に説明します。

ドライバが組み込まれていない場合、デバイス マネージャを起動すると以下のように『PCI Device』に！マークが表示されます。



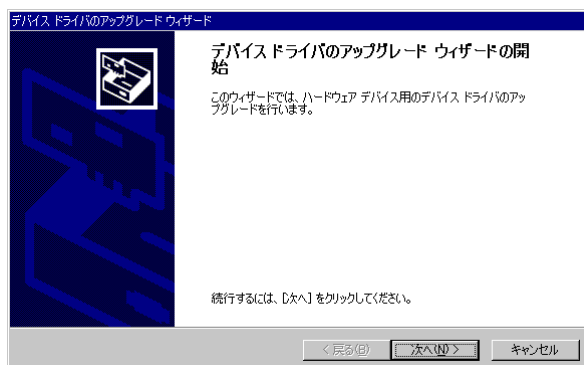
デバイス マネージャは次の手順で起動できます。

[スタート メニュー] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動します。起動した『システムのプロパティ』で [ハードウェア] タブの [デバイス マネージャ] ボタンをクリックします。

- 1) Administrator 権限を持つユーザ（管理者）でログインしてください。
- 2) Rte for WIN32 のインストールを行っていない場合は、Rte for WIN32 のインストールを行ってください。
- 3) デバイス マネージャで『PCI Device』を選択し [操作] メニューから [プロパティ] を選択してください。
- 4) 『PCI Device のプロパティ』ダイアログが表示されますので、[ドライバの再インストール(I)] ボタンをクリックしてください。または、『ドライバ』タブの [ドライバの更新(U)] ボタンをクリックしてください。



- 5) 『デバイス ドライバのアップグレード ウィザード』 ダイアログが表示されます。これ以降の手順は、『5.14.1.PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』と同様です。



#### 5.14.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で『PCI Device』もしくは『RTE PCI Host Interface Card or RTE-PC Series』をデバイス・マネージャから削除してしまった場合、『PCI Device』もしくは『RTE PCI Host Interface Card or RTE-PC Series』が表示されなくなります。

このような場合、[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『ハードウェアの追加と削除』を起動してプラグ アンド プレイ機器の検索を行ってください。PCI ボードが検出された以降の手順は、『5.14.1.PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』と同様です。

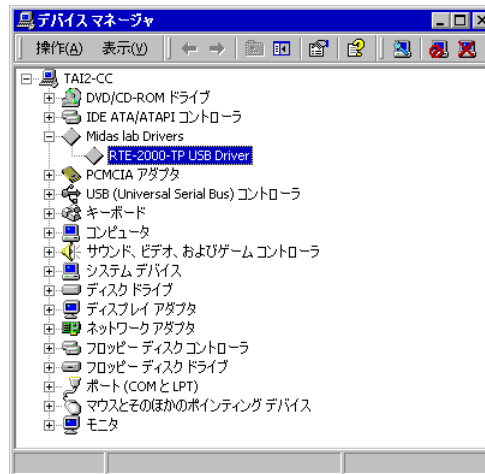
### 5.15. Windows 2000 環境における USB ドライバの組み込み

この章では、Windows 2000 使用時の USB 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

#### 5.15.1. USB 経由で初めてホストに接続した場合

RTE-2000(H)-TP を USB 経由で初めてホストに接続した場合のドライバの組み込み手順は、PCI ボードの場合と同じです。『5.14.1 PCI ボードを初めて PCI バスに挿して Windows を起動した場合』を参照してください。

正常に USB ドライバが組み込まれた時のデバイス・マネージャの様子を下図に示します。

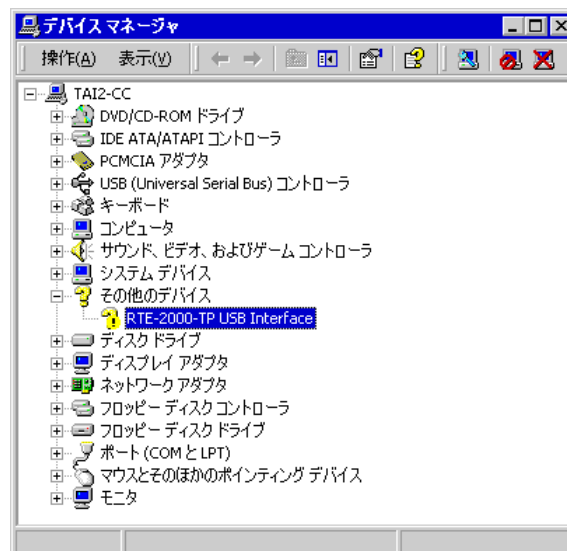


デバイス マネージャは次の手順で起動できます。

【スタート メニュー】 → 【設定】 → 【コントロールパネル】で『システム』を起動します。起動した『システムのプロパティ』で【ハードウェア】タブの【デバイス マネージャ】ボタンをクリックします。

#### 5.15.2. ドライバが組み込まれていない場合の後のドライバの組み込み

USB ドライバの組み込み中にキャンセルした場合、USB ドライバが組み込まれていない状態になります。この時のデバイス・マネージャの様子を下図に示します。



このような状態の場合は、デバイス・マネージャの『操作』メニューから『ハードウェア変更のスキャン』を選択するか、RTE-2000(H)-TP から USB ケーブルを抜き、少し待ってから再度 USB ケーブルを挿してください。すると『新しいハードウェアの検出ウィザード』が起動しま

す。これ以降の手順は『5.15.1 USB 経由で初めてホストに接続した場合』と同様です。

#### 5.15.3. ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合

何等かの理由で USB ドライバをデバイス・マネージャから削除してしまった場合、RTE-2000(H)-TP を示す USB デバイスがデバイス・マネージャに表示されなくなります。

このような場合は、デバイス・マネージャの『操作』メニューから『ハードウェア変更のスクリーン』を選択するか、RTE-2000(H)-TP から USB ケーブルを抜き、少し待ってから再度 USB ケーブルを挿してください。すると『新しいハードウェアの検出ウィザード』が起動します。これ以降の手順は『5.15.1 USB 経由で初めてホストに接続した場合』と同様です。

### 5.16. Windows 95 の見分け方

Windows 95 には、一般的に OSR2 と呼ばれる Windows 95 (以降「Windows 95 (OSR2)」) と、そうでない Windows 95 (以降「Windows 95 (否 OSR2)」) があります。この 2 つの Windows 95 では、カード個別ドライバの組み込みにおいて手順の違いがあるため、次章以降でそれぞれの場合について、手順を説明します。

これらの 2 つの Windows 95 を見分ける方法は、次の通りです。

1. [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動します。
2. 『システムのプロパティ』の『情報』タブの『システム』部分に表示されている数字を確認します(下図参照)。このバージョンが『4.00.950 B』もしくは『4.00.950 C』の場合は、Windows95 は OSR2 です。(OSR2 以外では『4.00.950』か『4.00.950a』の表示になります)



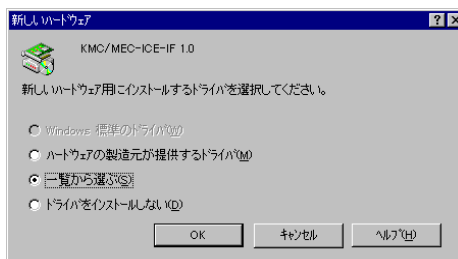
### 5.17. Windows 95 (否 OSR2) 環境における PC-CARD ドライバの組み込み

この章では、Windows 95 (否 OSR2) 使用時の PC-CARD 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

PC-CARD インターフェースには特別なドライバは必要ないため、標準で用意されているドライバを組み込みます。

標準のドライバの組み込み手順を下記に示します。

- 1) PC-CARD インターフェースを PC-CARD 用ソケットに挿し込みます。すると『新しいハードウェア』ダイアログが表示されるので、『一覧から選ぶ』を選択し OK ボタンをクリックしてください (パソコンによってはこのダイアログが表示されるまで暫く時間がかかることがあります)。

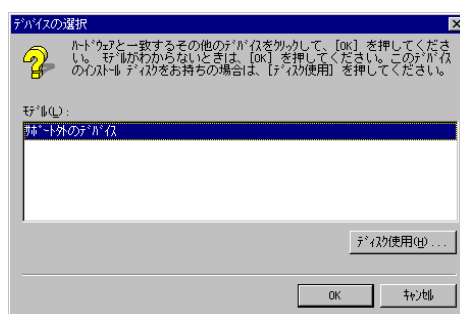


PC-CARD を挿しても『新しいハードウェア』ダイアログが表示されない場合や、ドライバが組み込まれた時に『ブーッ』というような音がした場合は、PC-CARD のカードサービスが正常に動作していない可能性があります。『5.24.PC-CARD が認識されない時のヒント(Windows 95/98)』を参照してカードサービスが正常に動作するようにしてください。

- 2) 次に『ハードウェアの種類を選択』ダイアログが表示されますので、『その他のデバイス』を選択してOKボタンをクリックしてください。



- 3) 次に『デバイスの選択』ダイアログが表示されますので、『サポート外のデバイス』を選択してOKボタンをクリックしてください。するとカード個別ドライバがインストールされ PC-CARD インターフェースが認識されます（この時カードを認識したことを知らせる『ピポッ』というような音がなります。



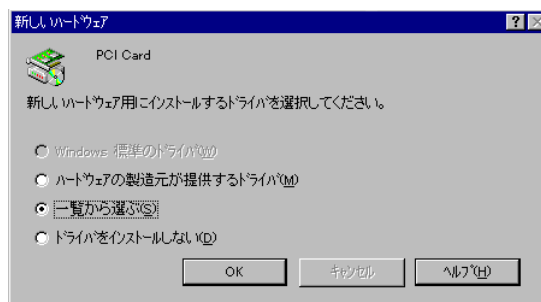
### 5.18. Windows 95 (否 OSR2) 環境における PCI ドライバの組み込み

この章では、Windows95 (否 OSR2)使用時の PCI 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

PCI インターフェースには特別なドライバは必要ないため、標準で用意されているドライバを組み込みます。

標準のドライバの組み込み手順を下記に示します。

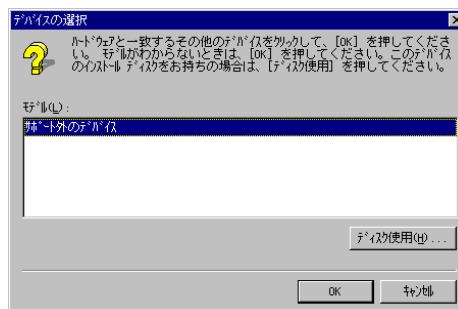
- 1) PCI インターフェースをインストールしたのち、Windows 95 起動時に PCI ドライバのインストールダイアログ・ボックスが表示されます。ここでは、「一覧から選ぶ」または「ドライバをインストールしない」をチェックして、[OK] をクリックしてください。



- 2) 次に『ハードウェアの種類を選択』ダイアログが表示されますので、『その他のデバイス』を選択してOKボタンをクリックしてください。



- 3) 次に『デバイスの選択』ダイアログが表示されますので、『サポート外のデバイス』を選択してOKボタンをクリックしてください。





### 5.19. Windows 95 (OSR2) 環境における PC-CARD ドライバの組み込み

この章では、Windows 95 (OSR2) 使用時の PC-CARD 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

PC-CARD インターフェースには特別なドライバは必要ないため、標準で用意されているドライバを組み込みます。

標準のドライバの組み込み手順を下記に示します。

- 1) PC-CARD(PCMCIA)インターフェースを PC-CARD 用のソケットに差し込みます。すると新しいハードウェアが検出された、という内容のダイアログが表示された後、暫くすると『デバイス ドライバ ウィザード』ダイアログが表示されるので、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



PC-CARD を挿しても『新しいハードウェア』ダイアログが表示されない場合や、ドライバが組み込まれた時に『ブーッ』というような音がした場合は、PC-CARD のカードサービスが正常に動作していない可能性があります。『5.24.PC-CARD が認識されない時のヒント(Windows 95/98)』を参照してカードサービスが正常に動作するようにしてください。

- 2) ドライバの検索ダイアログが表示されますが、暫くすると次図のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。

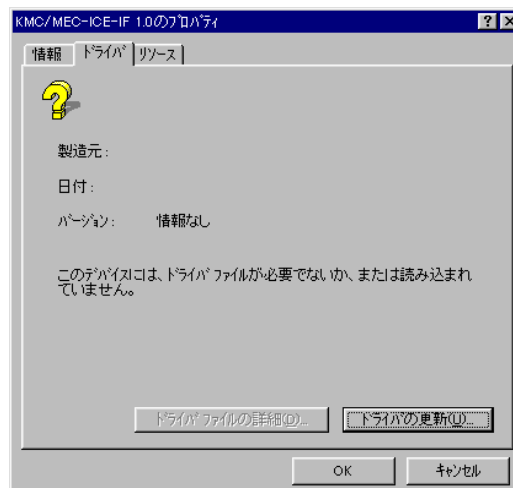


- 3) [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動し『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タブを選択します。一覧中に『その他のデバイス』が表示されますので、これをダブルクリックするか、左側の+記号をクリックすると『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』が表示されますので、これを選択し [プロパティ(P)] ボタンをクリックします。



『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』に！マークが付いていますが問題ありません。

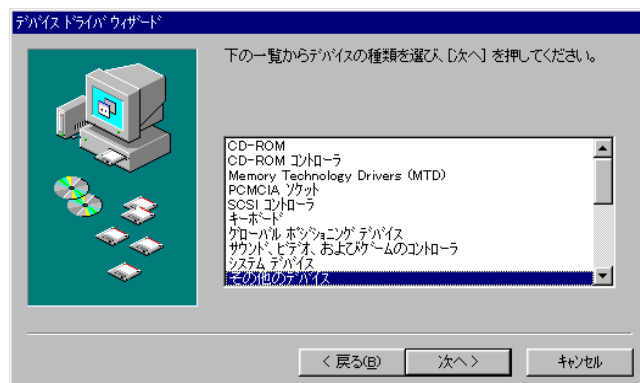
- 4) 『KMC/MEC-ICE-IF 1.0 のプロパティ』ダイアログが表示されますので、『ドライバ』タブを選択し、[ドライバの更新(U)] ボタンをクリックしてください。



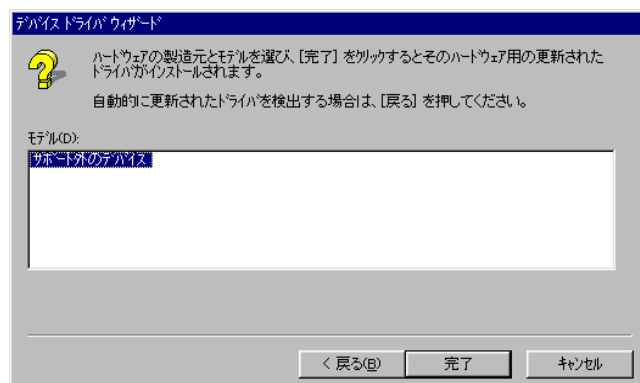
- 5) 『デバイス ドライバ ウィザード』ダイアログが表示されますので、『一覧からドライバを選ぶ(N)』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 6) 次のダイアログで『その他のデバイス』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 7) 次のダイアログで『サポート外のデバイス』を選択して、[完了] ボタンをクリックしてください。この操作により、ドライバがロードされ PC-CARD が使用可能になります。



- 8) 『システムのプロパティ』ダイアログの『デバイス マネージャ』タブで確認すると、『KMC/MEC-ICE-IF 1.0』が『サポート外のデバイス』に変わり、！マークが表示されなくなります。



## 5.20. Windows 95 (OSR2) 環境における PCI ドライバの組み込み

この章では、Windows95 (OSR2)使用時の PCI 用個別ドライバの組み込み手順について説明します。

PCI インターフェースには特別なドライバは必要ないため、標準で用意されているドライバを組み込みます。

標準のドライバの組み込み手順を下記に示します。

- 1) RTE シリーズを PCI バスに挿し、最初に Windows95 を起動した時、新しいハードウェアが検出された、という内容のダイアログが表示された後、暫くすると『デバイス ドライバ ウィザード』ダイアログが表示されるので、[次へ >] ボタンをクリックしてください。




- 2) ドライバの検索ダイアログが表示されますが、暫くすると次図のダイアログが表示されますので、[完了] ボタンをクリックしてください。

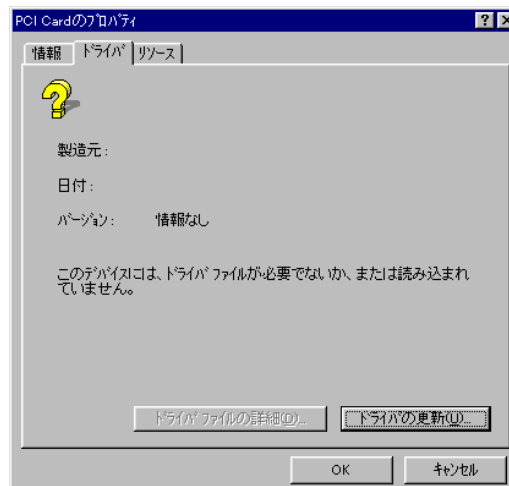


- 3) [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] で『システム』を起動し『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』タブを選択します。一覧中に『その他のデバイス』が表示されますので、これをダブルクリックするか、左側の+記号をクリックすると『PCI Card』が表示されますので、これを選択し [プロパティ(P)] ボタンをクリックします。



 『PCI Card』には！マークが付いていますが問題ありません。

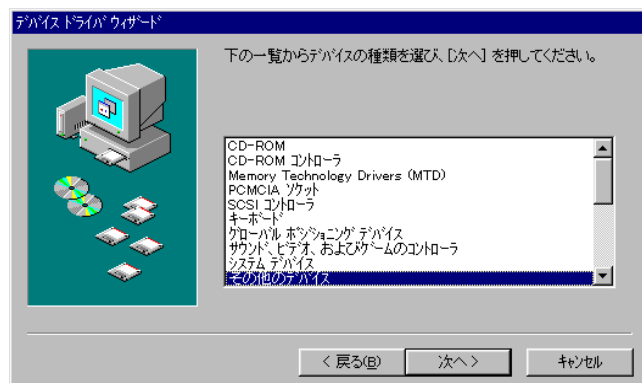
- 4) 『PCI Card のプロパティ』ダイアログが表示されますので、『ドライバ』タブを選択し、『ドライバの更新(U)』ボタンをクリックしてください。



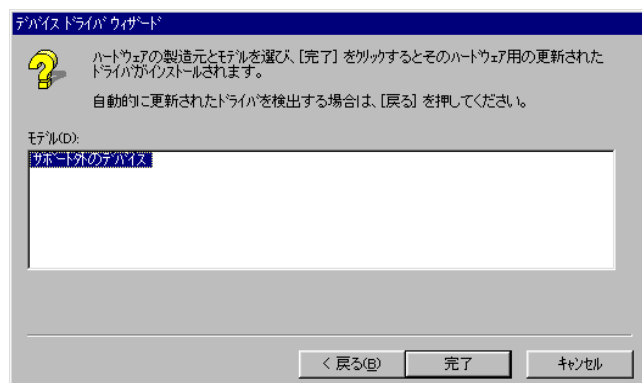
- 5) 『デバイス ドライバ ウィザード』ダイアログが表示されますので、『一覧からドライバを選ぶ(N)』を選択し、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 6) 次のダイアログで『その他のデバイス』を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。



- 7) 次のダイアログで『サポート外のデバイス』を選択して、[完了] ボタンをクリックしてください。



- 8) 『システムのプロパティ』ダイアログの『デバイス マネージャ』タブで確認すると、『PCI Card』が『サポート外のデバイス』に変わり、!マークが表示されなくなります。





### 5.21. Windows XP, Windows 2000 および Windows NT 4.0 環境における RTE I/O ドライバの組み込み

Windows XP, Windows 2000 および Windows NT 4.0 で I/O ポートをアクセスするインターフェース(PC-CARD, Host Card, I/O ポート, PCI)を使用する場合は、RTE I/O ポートドライバをインストールする必要があります。このドライバのインストールとアンインストールは、setup.exe により自動的に行われます。

Check RTE2 は、RTE I/O ドライバのレジストリキーとして以下のエントリを作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥RTEDEV
```

また、ドライバ・ファイルは、RTEDEV.SYS です。

### 5.22. Windows NT 4.0 環境における RTE PC-CARD ドライバの組み込み

Windows NT 4.0 で PC-CARD インターフェースを使用する場合は、RTE PC-CARD ドライバをインストールする必要があります。このドライバのインストールは、setup.exe を起動した時に最初のダイアログの「PC カードドライバもインストールする」チェックボックスをチェックすることで行います。アンインストールは、setup.exe でアンインストールを行えば、自動的にアンインストールされます。

Check RTE2 は、RTE I/O ドライバのレジストリキーとして以下のエントリを作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥Pcmcia¥DataBase¥KMC/MEC¥
```

また、ドライバファイルは、RTEPCIF.SYS です。

### 5.23. Windows NT 4.0 環境における PC-CARD インターフェースの制限事項

Windows NT 4.0 環境で PC-CARD インターフェースをお使いになる場合、PC-CARD インターフェースが I/O アドレスの 220H 番地に割り付いていないと正常に動作しません。

Windows NT 4.0 環境において PC-CARD インターフェースを用いている場合で、「Check RTE2」の接続確認で失敗する場合、I/O の割り付けアドレスが 220H になっているかどうか確認してください。

I/O の割り付けアドレスが 220H になっていない場合、220H 番地に割り付いている他の資源を他のアドレスに割り付けることで、PC-CARD インターフェースを 220H 番地に割り付けできます。220H 番地に割り付いている他の資源の種類により、その割り付けアドレスを変更する方法には下記のような方法があります。

- ・ 220H 番地に割り付いている資源が ISA バスのカードの場合、ディップ・スイッチやユーティリティで割り付け I/O アドレスを変更できる場合があります。
- ・ 220H 番地に割り付いている資源用のドライバの添付ソフト、もしくはインストーラで割り付けアドレスを変更できる場合があります。
- ・ 220H 番地に割り付いている資源がマザー・ボードのオンボード機能の場合や、ノートパソコンの内蔵機能の場合、BIOS の設定により割り付け I/O アドレスを変更できる場合があります。
- ・ 220H 番地に割り付いている資源がマザー・ボードのオンボード機能の場合や、ノートパソコンの内蔵機能の場合、BIOS の設定によりその機能を無効に設定することができる場合があります。このような場合、その機能を無効にした状態でパソコンを立ち上げると、PC-CARD インターフェースが 220H 番地に割り付きます。この状態で、パソコンを一旦シャットダウンし、無効になっていた機能を有効にすると、その機能の割り付けアドレスが 220H 以外になる場合があります。
- ・ 220H 番地に割り付いている資源が PCI ボードの場合、そのボードを取り外した状態でパ

ソコンを立ち上げると、PC-CARD インターフェースが 220H 番地に割り付きます。この状態で、パソコンを一旦シャットダウンし、外していたボードを元に戻してパソコンを再起動すると、外していたボードの割り付けアドレスが 220H 以外になる場合があります。



[スタートメニュー] → [プログラム] → [管理ツール] → [Windows NT 診断プログラム] で診断プログラムを起動し、[リソース] タブの [I/O ポート] を見ると、I/O アドレスの割り付け状態が分かります。



サウンド機能は I/O アドレスの 220H 番地に割り付けられる場合が多いようです。

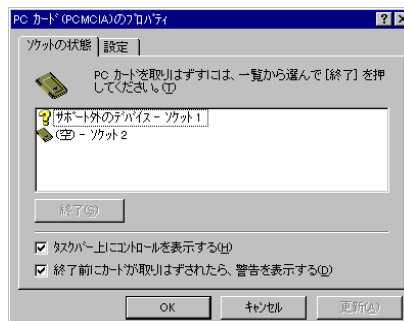
### 5.24. PC-CARD が認識されない時のヒント(Windows 95/98)

PC-CARD がうまく認識できない場合、その原因のほとんどは PC-CARD のカードサービスが正常に動作していないことが考えられます。また、カードサービスが正常に動作していない原因のほとんどはハードウェアの設定などパソコン固有の問題であり、ここで全てのケースについて説明できませんが、一般的に考えられる問題の対処方法を説明することで、問題解決のヒントを示します。

#### 5.24.1. 『新しいハードウェア』 ダイアログが表示されない

カード固有のドライバを組み込む際に『新しいハードウェア』ダイアログが開かなかった場合や、間違って組み込んでしまったため既に組み込まれているカード固有のドライバを取り替えたい場合の手順を下記に示します。

- 1) PC-CARD インターフェースがソケットに挿さっている状態で、[スタート] → [設定] → [コントロール パネル] → [PC カード(PCMCIA)] で『PC カード(PCMCIA)のプロパティ』ダイアログを表示させ、『ソケットの状態』 タグを表示させます。



- 2) PC-CARD インターフェースが挿さっているソケットのデバイス名（上図の場合『サポート外のデバイス』ですが間違った PC-CARD 固有ドライバを組み込んでしまった後では異なることがあります）を覚えておきます。
- 3) [スタート] → [設定] → [コントロール パネル] → [システム] で『システムのプロパティ』ダイアログを表示させ、『デバイス マネージャ』 タグを選択します。ここで 2)のデバイスを探し選択します。
- 4) 2)のデバイスが選択されていることを確認し、『削除(E)』 ボタンをクリックしデバイスを削除します（**注意:間違ったデバイスを削除しないように慎重に作業してください。**）。
- 5) 一旦 PC-CARD インターフェースを抜き、数秒待ってから PC-CARD インターフェースを再度ソケットに挿します。すると『PC-CARD ドライバの組み込み』で説明した『新しいハードウェア』ダイアログが開きます。これ以降の手順は各 OS のドライバの組み込みの章を参照してください。

#### 5.24.2. PC-CARD を挿すと『ブーッ』という音がる

PC-CARD インターフェースをソケットに挿した時に『ピポッ』という感じの音ではなく、『ブーッ』というような音がする場合は、PC-CARD のカードサービスがうまく動作していないことが考えられます。この原因としては PC-CARD のカードサービスの組み込み時に間違ったドライバをインストールした、パソコンによっては BIOS の設定（ISA-BUS シェアードメモリの設定など）が間違っている、などの原因が考えられます。

このような場合は、パソコンもしくは PC-CARD ソケットのハードウェアに付属のマニュアルを参照して、PC-CARD のカードサービスが正常に動作するようにしてください。

## 6. エラーメッセージと対策

ここでは RTE for WIN32 の機能テスト時に表示されるエラーメッセージと、その対策について記述します。

### COMx:がオープンできません

- ◆ 指定されたシリアル・ポートは使用できません。
- ✓ 接続するシリアル・ポートを変更してください。

### RTE-PC は I/O=XXXX:に接続されていません

- ◆ RTE-xxxx-PC の I/O アドレスが違います。
- ✓ RTE システムのハードウェアの接続を確認してください。
- ✓ I/O アドレスを変更するかディップ・スイッチの設定を確認してください。

### 受信データ数不正

#### 受信データ不正: xx yy != XX YY

- ◆ RTE システム側から返されたデータが不正です。
- ✓ ポート、ケーブルの不良が考えられます。RTE システムと PC の電源を一度落として、再チェックしてください。
- ✓ シリアル・ポートの場合は、ボーレートを変更してみてください。

### データ送信不能

#### 送信タイムアウト

- ◆ データが送信できません。
- ✓ RTE システムのハードウェアの電源が入っているかどうか確認してください。
- ✓ ポートの接続を確認してください。

### 受信エラー

- ◆ データ受信に失敗しました。
- ✓ シリアルの通信異常か、ケーブルの不良が考えられます。

### 受信タイムアウト

- ◆ RTE システム側から応答がありません。
- ✓ シリアルの通信異常か、ケーブルの不良が考えられます。
- ✓ RTE-xxxx-IE の場合、ターゲット CPU 側の電源およびクロックなどを確認してください。

### リトライ回数が多すぎます

- ◆ RTE-xxxx-PC 側からの応答が不正です。
- ✓ 再度確認ボタンをクリックして、チェックを繰り返してみてください。同じ状況の場合は、RTE システムと PC の電源を一度落として、再チェックしてください。

これら以外のエラーが表示された場合は、使用しているインターフェース・カードのマニュアルを参照してください。

- Memo -